

JICA 海外協力隊向け実践ガイド

CROSSROADS

クロスロード

1



2020 JANUARY

特集1

リハビリ分野の活動ポイント

新春特別企画

誌上書き初め大会 ~協力隊版~



現在の派遣国数

76 カ国



JICA海外協力隊 派遣現況

(2019年11月末現在、単位：人)

■ アフリカ地域

国名	JV	SV
ウガンダ	34	1
エスワティニ	4	
エチオピア	20	
ガーナ	48	2
ガボン	18	3
カメルーン	26	2
ケニア	43	4
ザンビア	63	9
ジブチ	12	
ジンバブエ	3	
セネガル	37	1
タンザニア	67	1
ナミビア	11	
ベナン	37	
ボツワナ	18	
マダガスカル	34	
マラウイ	36	
南アフリカ共和国	6	4
モザンビーク	31	3
ルワンダ	42	
レソト	1	1

■ アジア地域

国名	JV	SV
インド	18	
インドネシア	15	1
ウズベキスタン	22	5
カンボジア	18	6
キルギス	26	
タイ	24	4
タジキスタン		4
中華人民共和国	11	
ネパール	55	4
東ティモール	34	
フィリピン	31	2
ブータン	13	3
ベトナム	34	12
マレーシア	15	6
ミャンマー	18	4
モルディブ	16	
モンゴル	45	
ラオス	38	1

■ 大洋州地域

国名	JV	SV
キリバス	7	
サモア	20	1
ソロモン	25	4
トンガ	13	1
バヌアツ	20	4
パプアニューギニア	32	4
パラオ	10	5
フィジー	22	4
マーシャル	5	1
ミクロネシア	14	5

■ 欧州地域

国名	JV	SV
セルビア	4	2

■ 中東地域

国名	JV	SV
イラン		1
エジプト	18	2
モロッコ	19	4
ヨルダン	35	

■ 中南米地域

国名	JV	SV	日系JV	日系SV
アルゼンチン		10	3	6
ウルグアイ		5		
エクアドル	41	4		
エルサルバドル	10			
キューバ		1		
グアテマラ	22	2		
コスタリカ	23	8		
コロンビア	18	10		
ジャマイカ	22	8		
セントビンセント	3			
セントルシア	9			
チリ	2	5		
ドミニカ共和国	22	4	3	2
ニカラグア		1		
パナマ	16	1		
パラグアイ	37	1	9	3
ブラジル			71	17
ペリウ	17			
ペルー	40	6		
ボリビア	35		3	1
ホンジュラス	20			
メキシコ	2	7		

■ 合計

	JV	SV	日系JV	日系SV	小計
派遣中 (男性/女性)	1,607 (677/930)	194 (136/58)	89 (33/56)	29 (11/18)	1,919 (857/1,062)
累計 (男性/女性)	45,303 (24,071/21,232)	6,515 (5,267/1,248)	1,503 (575/928)	546 (252/294)	53,867 (30,165/23,702)

JV = 青年海外協力隊/海外協力隊

SV = シニア海外協力隊

日系JV = 日系社会青年海外協力隊/日系社会海外協力隊

日系SV = 日系社会シニア海外協力隊

クロスロード

2020 JAN

Contents

4

JICA Volunteers' NEWS

▶理科で身に付けた力を発表する場を！モンゴル初の「科学作品コンクール」を開催（モンゴル）
▶東京2020オリンピック競技大会出場を目指し、代表チームをサポート（ケニア）

特集1

リハビリ分野の活動ポイント

6

CASE 1

飯塚和夫さん（ベトナム・作業療法士・2016年度4次隊）

8

CASE 2

今村怜子さん（ペルー・理学療法士・2016年度2次隊）

10

CASE 3

溝口 仁さん（ソロモン・言語聴覚士・2017年度1次隊）

12

活動Q&A集

特集2

【新春特別企画】

誌上書き初め大会 ~協力隊版~

14

AFRICA

16

ASIA

18

CENTRAL AND SOUTH AMERICA

20

MIDDLE EAST/EUROPE/OCEANIA

22

“失敗”から学ぶ

竹本大起さん（マラウイ・理科教育・2017年度2次隊）

24

希少職種図鑑

▶金属加工 平野 正さん（SV/インドネシア・2015年度2次隊）
▶歯科衛生士 小原晴子さん（パラオ・2015年度3次隊）

26

JICA Volunteer's Before ▶ After ~人生を変えた2年間~

サッカーチームの指導・運営 米山信介さん（スリランカ・サッカー・2016年度2次隊）

28

OB・OG匿名座談会

リハビリ分野篇

30

JICA海外協力隊的プチテクガイド

スマートフォンで動画づくり/メガネケースのつくり方

32

INFORMATION

34

JICA海外協力隊のつぶやき

お題：「リフレッシュ」

35

協力隊@TOKYO 2020

本誌は、JICA海外協力隊が現地での活動・生活を円滑に行うための実践的な情報、および帰国後の進路開拓や社会還元に関する有益な情報を提供し、対象者に配布しています。

ロゴタイプデザイン：S+M DESIGN FACTORY

レイアウト：S+M DESIGN FACTORY

印刷・製本：弘報印刷（株）

■職種別索引 掲載ページ

コミュニティ開発	14
造園	21
花き栽培	18
金属加工	24
マーケティング	18
青少年活動	35
環境教育	20
水泳	17
バレーボール	4
サッカー	26
PCインストラクター	15
日本語教育	16
理科教育	22
数学教育	19、36
体育	16
小学校教育	4、15
美容師	17
歯科衛生士	25
看護師	20
言語聴覚士	10
作業療法士	6、28
理学療法士	8、19、28
障害児・者支援	21

■国別索引 掲載ページ

アルゼンチン	18
イラン	21
インド	17
インドネシア	24
ウズベキスタン	17
ガーナ	15
カンボジア	16
キリバス	20
ケニア	4、35
スリランカ	26
セルビア	21
セントビンセント	18
ソロモン	10
タンザニア	36
中華人民共和国	16
チリ	19
ナミビア	15
パナマ	19
パラオ	25
ベトナム	6
ペルー	8
マダガスカル	14
マラウイ	22
ミクロネシア	20
モンゴル	4

■出身都道府県別索引 掲載ページ

岩手県	25
埼玉県	22
東京都	35
新潟県	24
神奈川県	26
静岡県	6
兵庫県	10、36
福岡県	8

【凡例】

- ① JICA海外協力隊の方々（経験者を含む）については、次のように表記しています。

国際協子さん（ウガンダ・青少年活動・2019年度2次隊）

氏名	派遣国	職種	隊次
----	-----	----	----

※「青年海外協力隊」以外のJICA海外協力隊（「シニア海外協力隊」「日系社会青年海外協力隊」「日系社会シニア海外協力隊」）の方々は、括弧内の冒頭に「SV」「日系JV」「日系SV」と記しています。

- ② JICAの「企画調査員（ボランティア事業）」については、「VC」と表記しています。



表彰式にてメダルや賞状、特別賞の日本のこまを受け取った児童と、現地の教員、佐藤さん（前列右端）、宮沢さん（前列右から2人目）。審査は、①独自性②課題解決の流れ③図表を使ったわかりやすさ④生活との関連性⑤動機や感想など課題への思い⑥継続や工夫がされているかの6観点で5段階評価で行い、上位3位と特別賞を決定した

コンクール提案から表彰式までの日程	
〈5月末〉提案	県教育局及び協力者にコンクールの趣旨を説明し、日程や詳細を決める。
〈8月の最終週〉公募、説明会	市内の学校を回って趣旨説明や師範実験を行う。市内の店や施設にお願いし、ポスターを貼る。
〈9月の1週目〉作品提出	作品の裏に学校と学級を明記させ、まとめて回収する。
〈9月の2～3週目〉審査	教育局職員と分担し、審査。上位3位と特別賞を選定。
〈10月1～31日〉展示会	市内の文化会館内の図書館に1カ月間展示する。
〈10月19日〉表彰式	展示会場にて、受賞者や教員、関係者を集めて表彰をする。隊員がサイエンスショーを行ったことも好評。
〈11月1日〜〉返却	作品の返却とともに、参加賞（折り紙メダルと日本式の賞状）を送る。

理科で身に付けた力を発表する場を！ モンゴル初の「科学作品コンクール」を開催

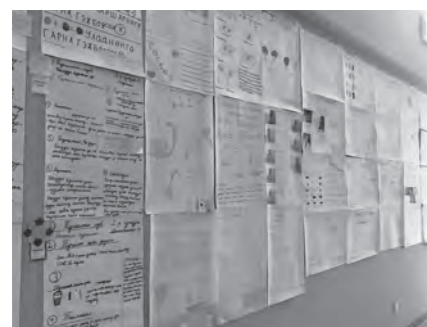
Mongolia

文 = 佐藤恵理子さん（モンゴル・小学校教育・2018年度3次隊）

私は、モンゴルの小学校教育における指導技術の向上を目指して活動しています。主にTT*として理科の授業に入り、身近な物を利用した実験の紹介をしたり、担任と授業研究をしたりしています。モンゴルの学校で一番驚いたのは、夏休みが3カ月近くあることです。土日祝日を含めると1年の約半分が休みということなんです。この長期休みを利用し、児童が自ら観察や実験を行う機会を設けたいと考えました。

また、モンゴルの児童も教員もコンクールが大好きです。スポーツや音楽などのコンクールが頻りにあり、それに向けた練習や準備にも熱心に取り組めます。しかし、これまで理科などで身に付けた課題解決能力を、個で試すことができる場はありませんでした。そこで、日本の夏休みの自由研究や科学コンクールを参考に、「理科実験コンクール」を提案しようと考えました。

校外の学習交流は児童の学習意欲をさらに刺激することを考え、市内の学校を回りに参加を募りました。私ひとりで実行するの



展示会では、優秀にかかわらず挑戦したことを讃える意味で全作品を展示。多くの児童が教師の引率で学級ごとに見学に来た。見学者が今後の参考にできるよう、優秀作品には折り紙のメダルを貼り示した

来年は今年の成果と課題を生かし、さらに質の高いコンクールにしたいと考えています。また、他県の隊員と協力し、国内の学習交流に発展させたいと考えています。

*TT…Team Teaching. 共同授業。

大会参加の流れ	
〈4月〉派遣	ケニアに派遣。
〈5月上旬〉赴任	任地ティカに赴任。
〈5月中旬〉チーム合流	代表チームに合流。
〈5月下旬〉大会帯同	オールアフリカ東アフリカ地区予選（ウガンダで開催）に出場。優勝→オールアフリカ出場権獲得。
〈7月〉大会帯同	アフリカネイションズ（エジプトで開催）に出場。準優勝。
〈8月上旬〉大会帯同	国際オリンピック予選（イタリアで開催）に出場。オリンピック出場権獲得ならず。
〈8月中旬〜下旬〉大会帯同	オールアフリカ（モロッコで開催）に出場。優勝。
〈9月〉大会帯同	ワールドカップ（日本で開催）に出場。



今回参加したワールドカップは17日間で行うというタイトな日程だったが、選手がケガすることなく全日程を終えることができた。「私が参加した当初は体のケア・メンテナンスを意識している選手やコーチが少なかったのですが、私がトレーニングを指導しはじめ、コンディショニングがうまくいくようになったと思っています」と片桐さん（右から2人目）は話す

東京2020オリンピック競技大会 出場を目指し、代表チームをサポート

Kenya

文 = 片桐翔太さん（ケニア・バレーボール・2018年度4次隊）

「ケニアの代表チームと東京2020オリンピック競技大会に出場したい」というのが私のケニアに来た最大の理由であり、要請内容でもありました。配属先はケニアバレーボール連盟でしたが、活動当初は会長にあいさつをしただけで、代表チームの関係者に知り合いがいませんでした。そんなとき首都でビーチバレーの大会が開催されると聞き、そこに足を運んで代表チームの練習場所を教えてもらい、監督に直談判。コーチとして練習に参加させてもらえることになりました。ケニアでの実績がなかったにもかかわらず、受け入れてくれた代表チームには本当に感謝しています。

練習に参加してからはコーチとしての技術指導に加え、正しいフォームから意識の改革まで取り組みました。ケニアというと身体能力が高いというイメージを持つ人もいますが、実際は代表候補の女子20人の中で、膝をついて腕立て伏せができたのは半数。それでも力強いアタックを打ち込むわけですから、しっかりと身体づくりができたらと思うとワクワクして指導に取り組みました。

今回参加したワールドカップは、公式にはアナリストとしてチームに帯同しました。試合中はデータを集計、分析し、選手のパフォーマンスの状態をテクニカルベンチに逐次情報として送り、チームとともに戦いました。その情報は、試合後、また次の試合でも活用されました。他国はパソコンを用いてデータ分析し、監督の手にあるタブレットに情報を送っておりましたが、

私は手づくりの紙のデータシートを使い、セット間にはベンチまで走っていくというアナログなやり方でケニアチームをサポート。それでもチームに今まではなかった付加価値をつけることができました。試合は1セットも取れることなく日々連敗が続いていました。しかし、世界ランク上位の国々と「自分たちのバレーをやつてしっかり戦えている」という自信がチームの中にありました。元々出場国の中で世界ランクは最下位で、この後に控えているアフリカ大陸オリンピック予選に照準を合わせ、それに向けてのチームの強化という意識がありました。その前向きな姿勢のおかげで、最終戦まで試合のたびに成長することができ、見事宿敵のカメルーンを破ることができました。

ケニアバレーボールの発展は、1970年代に日本人のバレーボール指導者がケニアに来たことから始まり、その後多くのJICA海外協力隊も派遣されてきました。「ケニアのバレーボールが発展してきたのは日本人のおかげだ。他の国の指導者が来てものにも残らない。私たちの間に残っているのは日本人の指導者の心だ」と言われることがあります。1月に開催予定のアフリカ大陸オリンピック予選で、残り1枠の出場権獲得を目指し、代表チームと共に戦っております。チームケニアとして東京オリンピックに出場し、これまでケニアの発展にかかわってきた日本人への恩返しにもなればと思っています。これからも応援よろしくお願いします。



- 1 自作の自助具を紹介する飯塚さんのFacebookページ
- 2 自作の指の模型
- 3 亜脱臼の仕組みを説明するためにつくった肩関節の模型
- 4 飯塚さんが同僚とともにつくった治療器具や自助具
- 5 手づくりした治療器具の使い方を同僚（左）に確認してもらった飯塚さん
- 6 ハンガーとホースでつくった自助具を使って食事の訓練に励む患者

特集1

リハビリ分野の活動ポイント

リハビリ分野の協力隊員は、その専門性についての理解が同僚も患者も十分ではないがゆえに、現地に技術を残すことに困難を感じるケースも少なくない。そうしたなかで、協力隊員の立場で果たし得る役割は何か？ 活動事例をととしてそのポイントを整理する。

CASE 1

飯塚さん基礎情報

PROFILE

1988年生まれ、静岡県出身。専門学校で作業療法士の免許を取得した後、脳神経外科病院に7年間勤務。2017年4月に協力隊員としてベトナムに赴任。19年4月に帰国。

活動概要

タインホア中央療養リハビリテーション病院(タインホア省サムソン市)に配属され、主に以下の活動に従事。
●患者の治療
●同僚への技術指導
●体の模型や治療器具、自助具の製作



飯塚和夫さん
Iizuka Kazuhiro
(ベトナム・作業療法士・2016年度4次隊)
の事例

教材や治療器具を 同僚たちとともに手づくり

リハビリテーション専門の病院で作業療法部門のレベルアップを支援した飯塚さん。専門性が低く、作業療法に関心の薄かった同僚たちの意欲を刺激したのは、現地で入手可能な材料で教材や治療器具などを手づくりする作業だ。

飯塚さんが配属されたタインホア中央療養リハビリテーション病院は、人口約15万人のタインホア省サムソン市におけるリハビリの基幹病院。病床数が約300床という規模で、飯塚さんが所属した作業療法部門の患者は1日平均60人程度だった。ベトナム人の作業療法士は2人の女性。彼女たちは3年制の専門学校で理学療法を学んでいたが、作業療法については3カ月の研修を受けただけだった。そうしたなか、飯塚さんには「作業療法士として患者の治療にあたりつつ、同僚たちへの技術指導も行うことが求められていた。

「解剖学」の知識不足に対して

同僚たちとともに治療に携わるようになり、飯塚さんは彼らの技術にさまざまな課題を感じたが、そのひとつは「体」に関する知識の不足だ。

例えば、脳梗塞の患者は肩が亜脱臼しやすいが、肩に付く筋肉のうち、どれが弱まって起こったかにより、亜脱臼の方向、引いては施すべき治療の方法が異なる。ところが、同僚たちは亜脱臼の方向にかかわらず、的外な治療方法をとってしまっていた。「解剖学」を学んだ経験がないため、「皮膚の中」にある骨や筋肉の状態をイメージできないのだった。

体の仕組みの細かな点を、慣れないベトナム語で伝えることは難しい。飯塚さんが指導の方法を見つけた。飯塚さんが訪れたのは赴任して3カ月ほど経ったころだ。配属先に一台の新しいパソコンが届いた。本体のコーナーを保護していた梱包用の発泡スチロールが、飯塚さんには「肩甲骨」に見えた。「ものづくり」が好きだった飯塚さんは、それを使って「肩の皮膚の中」が学べる模型をつくらうと閃いたのだ。

目指したのは、単に骨を型どった模型でなく、亜脱臼の仕組みを可視化する模型である。発泡スチロールを削って肩関節の骨の形にしたうえで、色の異なる4つの輪ゴムを取り付け、肩に付く4種の筋肉を表現。実際の体と同じように、外すゴムによって関節の外れる方向が異なるようにした。手でいじりながら、亜脱臼の仕組みをじっくり確認することができるといった。

飯塚さんはこの模型の製作を機に、現地で入手可能な材料を使って体の模型や治療器具、自助具をつくることに力を入れるようになった。市場に行くときなどは、「何かの材料に使えないか」を常に意識しながら商品を見物。そうしてつくったものの例は、次のとおり。

*1 自助具…患者の障害の状態に合わせてつくる、生活上の動作を容易にするための道具。

「ものづくりの協働」の効果

以上のように手づくりしたものを、飯塚さんは同僚への技術指導や患者の治療などに活用するだけでなく、製作自体を同僚たちともに行うようになった。慣れないベトナム語では、彼女たちとのコミュニケーションが思うようにいかないなか、「ものづくり」の協働がそれを補ってくれたからだ。製作の過程で、飯塚さんは彼女たちに専門知識を伝授。反対に、飯塚さんは専門用語のベトナム語表現をひとつひとつ教わるなど、双方の学び合いをする格好のツールとなった。

配属先外への波紋

現地で入手可能な材料で体の模型や治療器具、自助具をつくる方法について、飯塚さんは配属先外のベトナムの作業療法士にも参考にしようという努力をした。情報の発信手段としたのは「Facebook」だ。調べたところ、同国では実に6割の国民が利用していることがわかったためである。

飯塚さんは、実際につくった模型などの製作手順を短い動画にまとめ、自身のFacebookページで配信。すると、リハビリ分野で活動する他のベトナム隊員の紹介でページ

*2 ベグボード…手指の巧緻性向上などを目的とした治療に使う器具のひとつで、ボードにある複数の穴に、ベグをつまんで差し込んでいくもの。

「コミュニケーションの方法は多様」

飯塚さんの活動 KEY POINT

リハビリ分野では、現地の言葉に慣れない赴任当初、専門用語を交えながら同僚に技術指導をすることは容易ではないだろう。そうしたなかで彼らとのコミュニケーションを深める手段となるのが、「言葉以外のコミュニケーション手段」。「ものづくりの協働」もそのひとつだ。

特集1 リハビリ分野の 活動ポイント

CASE 2



今村 怜子さん
Imamura Reiko
(ヘルパー・理学療法士・2016年度2次隊)
の事例

マンパワーで実績を出し、 「運動療法」の定着を促進

理学療法士として病院に派遣された今村さん。人手不足のため、根拠なくして手間の少ない治療方法が選ばれていたなか、自身が行う治療で改善の実績を出し、有意義な「運動療法」の定着を促した。

- 1 経済的な事情で治療を受けることができない患者を対象に、集団での運動指導も行った
- 2 患者が独力で適切な運動ができるよう、理学療法室に貼り出した写真付きのマニュアルの例
- 3 運動療法(奥)が行われるようになった理学療法室の様子
- 4 地方の専門学校で看護師や保育士の卵を相手に、赤ん坊の適切なおぶり方を指導する今村さん(中央)
- 5 地方の小学校で啓発活動をした際、体が十分な発達をしていない子どもが多かったことから、「ゴールデンエイジ」(運動神経が著しく発達する12歳まで)にすべき運動の例も紹介
- 6 両脚を閉じた状態で赤ん坊をおぶる現地の母親
- 7 今村さんが紹介した方法で赤ん坊をおぶる現地の母親



1

2

今村さん基礎情報

PROFILE

1984年生まれ、福岡県出身。大学卒業後、理学療法士として病院のスポーツ整形外科や神経内科に勤務。退職後の2016年10月、協力隊員としてヘルパーに赴任し、18年に帰国。現在は理学療法士として訪問看護ステーションに勤務。

活動概要

- エンマヌエル協会診療所(カヤオ市)の理学療法室に配属され、主に以下の活動に従事。
- 患者の治療
- 運動療法の導入を中心とする、同僚への技術指導
- 赤ん坊の育て方に関する啓発

今村さんが配属されたのは、首都近郊にある総合病院の理学療法室。外来だけを受け付ける病院で、理学療法室の患者は一日平均30、40人という水準だった。同室のスタッフは入れ替わりが激しかったが、おおむね次のような構成だった。

■ 理学療法士 大学で理学療法を学んでいる人材。人数は1〜3人。

■ 理学療法助手 専門学校で物理療法と一部の徒手療法を学んでいる人材。人数は2、3人(日替わり勤務)。

人手不足が運動療法の壁に

同僚たちとともに理学療法士として一部の患者の治療を分担することから活動を始めた今村さん。理学療法室の最大の課題だと感じたのは、症状に合った治療法がとられていない点だった。医師の処方では具体的な治療法の指定がなく、それを

決めるのは理学療法室のスタッフの役割。室長が決めていた1人の患者の治療時間は「1回1時間」だったが、そのなかで実際に行われていた治療の平均的な内容は、物理療法が45分間で、マッサージが15分間という内訳だった。それは画一的であり、各患者の「関節の可動性」や「筋肉の状態」などにもとづいた治療法の選択ではなかった。そのため、治療により症状が悪化してしまう患者もいるような状況だった。

そうしたなかで今村さんが立てた活動目標のひとつは、理学療法室で行われていなかった「運動療法」の導入・定着だ。これが不可欠だと見られる患者が多いうえ、「平行棒」など実践に必要な機材も備わっていたから。

同僚たちには、運動療法のやり方やその意義に関する一定の知識があった。実践を阻んでいたのは「人手

治療をしたのか」と問われると、今村さんは「運動療法だ」と返答。そうして、次第に同僚たちの行動は変化する。手間の余裕がある限りで運動療法を実践するようになり、「この患者にこの運動をさせてみたら、痛いと言っていた。どのような運動が良いのだろうか」と今村さんに尋ねてくるようになったのだ。

赴任して一年半ほど経ったころには、理学療法室内の患者の「動線」が変化。同僚たちは運動をしている患者のそばで別の患者に徒手療法をし、両方の患者に同時に目を配れるようにするなど、「人手不足」を補うよう工夫をするようになり、患者によっては30分ほどが運動療法にあてられるようになったのだ。運動療法の充実化に伴い、治療で悪化してしまっ患者は減少。回復期間の短縮が進むようになった。

院外でも子育て指導を展開

今村さんが運動療法の定着を図るかわらで力を入れた活動は、身体障害の「予防」に関する啓発だ。今村さんは着任してからの半年間、患者の理学療法用カルテに記載されていた診断名の集計を続けた。すると、日本では例が少ない「側弯症」や「股関節疾患」の多いことがわかった。同僚とともに原因を考えた結果、赤ん坊が生まれてから歩くまでの間に行っている次のような育て方に問題のあることが見えてきた。

■ おくるみで固定して寝かせる。そのため、寝返りや這い這い、うつぶせで頭を上げる動作などによる筋肉の発達に阻害されてしまう。

■ 両脚を閉じ、股関節が適切でない角度の状態に布にくるみ、おぶる。

■ 現地でおんぶに使われている布は正方形。それを使って両脚を広げておぶる方法がないか、情報を探したところ、日本のベビー用品メーカーのウェブサイトで、帯状の布をおんぶ紐として使う方法を紹介するイラストを発見した。使用の許諾を得ようという問い合わせたところ、作者は赤ん坊のおんぶのやり方も研究している保育学の研究者だった。彼女に事情を伝えると、正方形の布で両脚を広げておぶる方法を教えてくれた。

■ そうして今村さんは、まずは来院している患者やその家族を対象に、赤ん坊の適切な寝かせ方やおんぶのやり方などを伝える講習を実施。すると、次第に今村さんが伝えたやり方で乳児をおぶる母親が増えていった。この啓発活動は配属先からも意義を評価され、任期の終盤には週に1日は赤ん坊の育て方の啓発に専念することが認められた。

赤ん坊の育て方の啓発は、配属先の外でも実施するチャンスを得ることができた。場所は、地方で活動する協力隊員の配属先。小学校や保育士を養成する専門学校などだ。

■ 両脚を広げておぶることができない「おんぶ紐」は、都市部ではそれが叶

わなかった。また、地方はインターネット環境も整っておらず、「子育て本」なども流通していないことから、赤ん坊の育て方に関する情報が入って来ない。さらには、地方には「理学療法士」がほとんどいない。そうした「都市部と地方の格差」を埋めるだけの経済力が国にないなか、「ボランティア」こそ、なにかしらの貢献ができる存在にほかならない。

■ そうした思いから、今村さんは協力隊員の伝手を活用して、地方での啓発活動に取り組んだのだ。協力隊員が配属されている地方の小学校や専門学校で啓発のメインの対象としたのは、その児童や学生だ。今は赤ん坊を抱えているわけではないが、彼らがいずれその立場に立ったとき、あるいは子育てをする親と付き合う立場に立ったときに、役立ててもらえるはずの啓発だったからである。

「人手不足」という 現地の状況への 対応方法を工夫

今村さんの活動 KEY POINT

リハビリ分野では、予算の都合上、配属先に十分なスタッフが配置されていないケースも少なくないだろう。そのため、「質は高いが、手間が増える技術」の定着を図る際には、徒手療法の実施場所を変更した本事例のような「工夫」が必要となる。

*3 運動療法…「歩行訓練」など、患者自身が運動することにより回復を図る治療法。

*4 側弯症…脊椎が左右の方向に曲ってしまう病気。

*1 物理療法…「電気」や「温度」などの物理的刺激によって行う治療法。

*2 徒手療法…「ストレッチ」や治療者が患者の体を動かす「モビライゼーション」など、治療者が手を使って行う治療法。

特集1
リハビリ分野の
活動ポイント

CASE 3

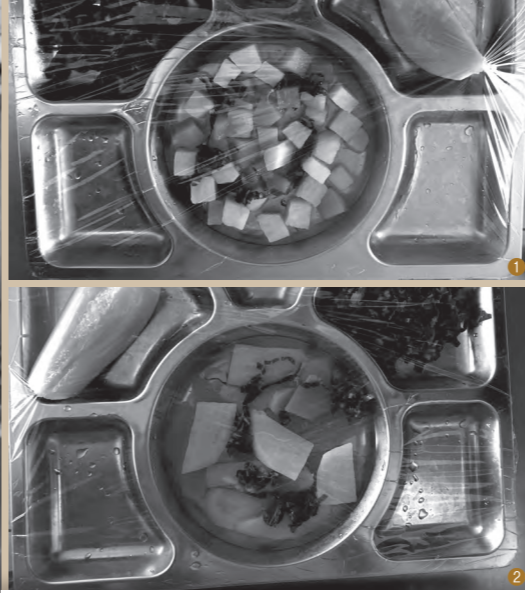


溝口 仁さん
Mizoguchi Hitoshi
(ソロモン・言語聴覚士・2017年度1次隊)
の事例

治療にあたるなかで見えた、
「食事」に関する課題を解決

病院のリハビリテーション科に配属された溝口さん。マンパワーでの活動に専念するなかで見えた、摂食嚥下障害の患者に関する「食事」の課題につき、患者の家族や病院食をつくるスタッフへの啓発に力を入れた。

- ① ② 食材の「飲み込みやすさ」を5段階に分けて提供されるようになった病院食の例
- ③ 口から胸にかけての断面図の教材の使い、配属先の栄養士やキッチンスタッフに摂食嚥下障害に関する啓発をする溝口さん
- ④ 溝口さんの指導を受け、摂食嚥下障害の子どもに適切な食べ物の与え方を試みる母親
- ⑤ ⑥ イモ類やバナナ、ココナツのすりつぶして「とろみ」に変化を出した病院食



溝口さん基礎情報

PROFILE

1981年生まれ、兵庫県出身。大学卒業後、専門学校で言語聴覚士の資格を取得。言語聴覚士として病院に勤務した後、2017年6月、協力隊員としてソロモンに赴任（現職参加）。19年3月に帰国し、復職。

活動概要

- ソロモン国立中央病院のリハビリテーション科に配属され、主に以下の活動に従事。
- 患者の治療
- 病院食の改善
- 同僚への技術指導

溝口さんの配属先は、ソロモン唯一の国立病院。国内最高水準の医療機関だが、言語聴覚療法に関しては、そもそも国内に専門家の教育機関がなく、着任当初の言語聴覚士は溝口さんただ一人という状態だった。2年制の短期大学でリハビリの初歩を学び、リハビリ部門で助手として働く同僚にOJTで知識の伝達を試みたりもしたが、そうした方法だけでは細かな技術を理解してもらうのはきわめて困難だった。

そうして、一言語聴覚士として患者の治療を一手に引き受ける「マンパワー」の活動からスタートした溝口さん。医師から言語聴覚療法が処方される患者の大半は脳卒中であり、摂食嚥下障害と失語症などの言語障害を併発している人も多かった。両者とも言語聴覚士の守備範囲だが、「話す機能」より「食べる機能」の回復のほうが本人にとって大事で

あり、医師からもそのような処方が出されたことから、溝口さんが行う治療は摂食嚥下障害に対するものがメインとなった。

患者の家族への啓発

治療にあたるなかで溝口さんが感じたのは、ソロモンの人々の「助け合い」の精神だ。例えば、一人の入院患者の介護にあたる家族は、日本なら2、3人が一般的であるのに対して、配属先では少なくとも7、8人が集まった。彼らは「同じ島の出身者はみな家族」というような感覚であり、車椅子の患者を、その島の20、30人ほどの住民が担ぎ、崖を運んできたといった話も聞いた。

そうした「助け合い」の精神は、ときに治療のボトルネックにもなった。介護にあたる家族が、患者のため「良かれ」と思っていること甲斐もあり、「ペースト状のもの」から、「細かく刻んだもの」、「少し荒く刻んだもの」といった具合に、「硬さ」が異なる5種類の献立を導入してもらったことができた。

献立の変更でハードルとなったのは、「とろみ」の付け方だ。片栗粉のように、ただ加えさえすればとろみの付く食材は現地にもあったが、オーストラリアからの輸入品に限られており、継続的な入手が難しい高価なものだった。それらの代用品として溝口さんが提案したのは、現地の食事でよく使われているタロイモやヤムイモ、キャッサバなどのイモ類、バナナやココナツなどだ。すりつぶす度合いによって、それらがさまざまなレベルのとろみを出す材料になったことから、病院食の調理にも取り入れてもらった。

ソロモン初の言語聴覚士

着任して1年あまり経ったころ、活動状況の風向きが変わる出来事があった。オーストラリアで言語聴覚士の専門教育を受け、同国の病院で研修まで済ませて資格を得た男性が、ソロモン初の言語聴覚士として溝口さんの配属先でインターンのような立場で働き始めたのだ。彼は、溝口さんの配属先でかつてリハビリ部門の助手を務めていた際、溝口さんの先代の言語聴覚士隊員の仕事に接して言語聴覚士を志し、留学を決意したとのことだった。

が、患者の回復を遅らせることになってしまっていたのだ。脳卒中などで喉の筋肉の動きが悪いと、食べ物をうまく飲み込むことができない患者は、食道に送り込むべき食べ物を気管に入れてしまう「誤嚥」のおそれがある。そうした患者には、水気が少なく、かつ硬すぎない、適度なとろみの食べ物を与えなければならぬ。ところが、介護にあたる家族は「体調が悪いのだから、しっかりと食べさせなければ」と、闇雲に食事を与えてしまっていた。特に危険だったのは、「水」を与えてしまったこと。液体は誤嚥の危険性が高くなる。高いが、「病人に水を飲ませてはいけない」という感覚は、現地の人には違和感の強いものがあった。

「今、この状態の患者にそういう食事を与えたら、気管に入り、肺炎になってしまう。絶対に止めてください」。そう訴えるものの、なかなか理解

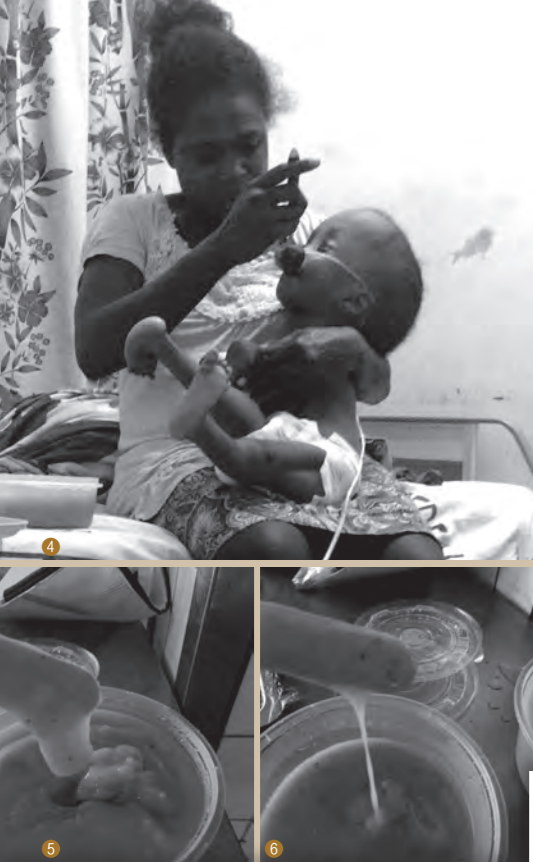
彼への技術の伝達は、2人で一人の患者の治療にあたりながら、治療の折々で技術を伝えるという方法で進めた。ほどなくして見えてきたのは、彼の「地頭」の良さと、オーストラリアで受けてきた専門教育の質の高さだ。後者については、日本の言語聴覚法の教育をはるかにしのぐ水準であることが察せられた。

彼への技術指導を8割方果たせたと感じたところで、溝口さんの任期は終了。無念だったのは、予算の都合により、彼が本採用となることが叶わなかったことだ。彼は溝口さんの帰国後、個人事業主として訪問リハビリを開始。いずれ、彼がソロモンの言語聴覚法の発展を率いることができるような社会状況が到来することを、溝口さんは期待している。

「マンパワー」としての活動が
メインになっても、
現地に残せるものはある

溝口さんの活動
KEY POINT

「マンパワー」としての活動に抵抗感を持つ協力隊員もいるだろう。しかし、例えばリハビリ分野の場合、「マンパワー」として活動することで初めて見えてくる、患者やその家族の状況の課題があるはず。それらは、「マンパワー以外の活動」の具体的なアイデアの着想につながるだろう。



協力隊技術顧問が回答 活動Q&A集

JICA海外協力隊員への技術支援を目的に、分野ごとに配置されている技術顧問。派遣中隊員から寄せられた活動に関する相談と、それに対する技術顧問による回答の例をご紹介します。

Q1

CBRでの効果的な取り組みは？
県社会福祉局配属の作業療法士隊員より

県の社会福祉局でコミュニティ・ヘルスト・リハビリテーション（CBR）に従事しています。現在、直面している課題として、リハビリテーションの技術を移転する対象がはつきりしません。医学的背景をもたない職員と巡回していても、漫然と巡回するだけで終わってしまうのではとの懸念もあります。CBRで効果的な取り組みのアドバイスをいただければと思います。

A1

私自身もネパールでCBRの経験をいたしました。作業療法士（OT）や理学療法士（PT）による障害者宅への個別訪問やコミュニティへの巡回訪問から行いました。さまざまな理由から移動や外出が困難な障害者が多いため、個別訪問が主でした。その後、コミュニティのボランティアを養成し、コミュニティワーカー（CBRワーカー）による巡回、学校教職員および父母への教育の重要性の啓発、自営を含むマイクロレジックトを活用した生計手段の確保や就労への働きかけ、障害者自助団体の組織づくりや育成なども経験しました。

脳性麻痺、脳血管障害は機能訓練による即効性はあまり期待できません。年齢および心身の発達段階に応じた家族や近隣の人たちとのかわり、姿勢管理、

教育、地域社会参加なども重要だと思います。就学前の障害者であれば、ぜひ学校へ通えるような働きかけもしていただくとういと思います。学校の受け入れ側の理解、登下校や学校内の移動、トイレ介助などの助言や支援者の呼びかけの体制づくりなどもよいと思います。

私は村を巡回して、障害のあるなしにかかわらず障害理解や住民組織化ができそうなりリーダー、自分の障害や自宅での日常生活の工夫などをうまく説明できる障害者を探していました。もし、コミュニティ内に親しい障害者の仲間がいれば、小グループになれるような働きかけも効果があると思います。自分たちの家庭や地域で抱えている課題を仲間と共有することからはじめ、障害があっても家庭や社会で活動できている人の話を聞く会などを企画しても良いかもしれません。村を巡回しながら、このような資源を探していました。

近年、「障害と開発」やCommunity based Inclusive Development (CBID) が注目されています。WHOでもCBRガイドラインのなかでCBRMatrixを公表しています。参考にされてはいかがでしょうか？

*1 <http://www.who.int/disabilities/cbr/en/>

Q2

先天性内反足の治療方法について
病院配属の理学療法士隊員より

活動中の病院には、先天性内反足の子どもが親に連れられてきています。日本では、先天性奇形の治療経験がありません。年齢も変形の程度もさまざま、まだ這うことのできない子どももいれば、変形のまま歩いている子どももいます。途上国の先天性内反足の子どもにどのよう理学療法を行い、家族指導をしていったら良いか教えていただきたいです。

A2

先天性内反足は、日本を含め世界のさまざまな国・地域で、おおよそ出生1000人に対し1人から2人にみられる障害で、一般的にはクラブフット（Club foot）と呼ばれています。自然治癒はしませんので、できるだけ生後早期に初期保存治療を開始します。現在では、アイオワ大学のポンセティ教授（Dr. Ponseti）が始めた方法が日本をはじめ多くの国で採用され、インターネット上にもフリーの文献を含めポンセティ法に関する情報をご覧になれます。

ポンセティ法では、生後7日から10日目くらいから始めるのがよく、徒手矯正とギプス固定を行います。徒手矯正は、足関節底屈位で距骨を固定し、前足部を外転させます。それから、前足部を回外させて凹足を矯正します。次に膝屈

曲位で大腿部までギプスを巻きます。日本では先天性内反の子どものギプス固定は医師が行い、理学療法士は行っていない。

派遣国では理学療法士や無資格の助手が行っていることもあり、経験のない隊員は、評価や家族指導にとどめなければいけません。徒手矯正とギプス固定は、1週間に1回程度のペースで約6週間繰り返し続けます。その後、アキレス腱切離術、足部外転装具による装具療法を行います。

家族指導は、ギプス固定中の注意点として、つま先がピンク色で温かい、また、ギプスの端の皮膚がすれて赤くなっていないかどうかの確認を指導します。つま先がピンク色でなく温かくもない、あるいは、つま先が見えない、ギプスにひびが入った場合などは、少量の酢を入れた温浴湯に浸すなどして直ちに外さなければなりません。装具療法は、24時間のうち23時間、装具を装着しています。装具を外す1時間、外反・背屈のストレッチを行います。その後、歩行ができる年齢になったら、踵をつけてしゃがみながらの遊びを子どもに促します。

ポンセティ法のテキストは、日本語、英語を含め多くの言語に翻訳され、インターネット上で公開されていますので、参考にされると良いでしょう。

*2 http://global-help.org/products/clubfoot_ponseti_management

ボランティア成果品 Pick Up (リハビリ分野)

- 『顔の体操および摂食嚥下障害について』
顔面神経麻痺後の体操と摂食嚥下障害へのアプローチに関する動画資料（MP4ファイル・モンゴル語と日本語／作＝モンゴルの言語聴覚士隊員）
- 『スキヤキ体操』
介護予防体操の説明書。体操動作に「さくら」「寿司」「侍」などを入れており、日本文化紹介も兼ねる（説明書はPDFファイル・タイ語／作＝タイのリハビリ関連職種隊員）
- 『リハビリテーション自主練習リーフレット』
リハビリの自主練習用マニュアル（PDFファイル・モンゴル語と日本語／作＝モンゴルの理学療法士隊員）

- 『リハビリテーションにおける訓練の解説（医師用）』
小児を対象としたリハビリ方法の医師向け動画資料（WMVファイル・ロシア語／作＝キルギスの理学療法士隊員）
- 『リハビリテーションにおける訓練の解説』
リハビリにおけるマッサージや運動のリハビリ職向け動画資料（WMVファイル・ロシア語／作＝キルギスの理学療法士隊員）

- 『体操指導マニュアル』
作 者：エクアドルの作業療法士隊員
内 容：リハビリの目的で行う体操の指導マニュアル
形 態：PDFファイル・スペイン語と日本語



- 『自主トレ3D版』
作 者：白井瑞樹氏（理学療法士）
翻訳者：コスタリカの理学療法士隊員
内 容：リハビリの自主練習用マニュアル
形 態：Excelファイル・スペイン語
（説明書はスペイン語と日本語）



AFRICA
ガーナ

“笑顔”
スマイル
(英語)



つらいことも大変なことも悩みごとも、笑顔になれば全部忘れることができます。

マイケル・アチエンポンさん
(藤本さんの教え子/
配属校のICTコースの生徒)

“少しずつ、
少しずつ”
カクラ カクラ
(チュイ語)



うまくいかないことや悩みごとがあると、現地の人にこの言葉で励まされます。焦らず少しずつ、少しずつ解決してこうという気持ちになります。

ふじもと たかし
藤本 高 さん
(PCインストラクター・2018年度4次隊)

2020
の抱負

今現在取り組んでいる、ウェブサイト制作に必要なHTML/CSS、JavaScriptといったプログラミング言語の学習を完遂することが、2020年の目標です。まだまだ道のりは長いですが、諦めずに学習を続けていきたいです。そして、将来はガーナを支えるソフトウェアエンジニアになりたいです。

2020
の抱負

2020年の抱負は、1人でも多くの生徒に夢と可能性を与えることです。19年に始めた配属校のICTコースの生徒に対するプログラミング教育に継続して取り組むことで、それを実現させたいです。また、配属校のICTコースの生徒だけでなく、学外の子どもに対しても、ワークショップなどを通してプログラミングやICT学習のおもしろさを伝えていきたいです。

藤本さんの活動概要 ▶▶▶キングス技術職業訓練校に配属され、ICTコースの生徒への指導や、コンピューター室の環境整備に取り組んでいる。

協力隊版
誌上書き初め大会



2020年の最初の号となる本号。新春の特別企画として、各国で活動中の協力隊員、および彼らが活動をともしにする現地の人たちに、「好きな言葉」を「書き初め」で表現し、合わせて2020年の抱負を綴ってもらいました。

AFRICA
ナミビア

“愛”
ラブ
(英語)



愛は途切れることがなく、強いもの。そして誰かに幸せを届けることができるもの。だから、私は愛という言葉が好きです。

エリザベス・ムレシさん
(福島さんの教え子/
配属校を2019年に卒業)

“私の友達”
エパンガ ランジェ
(ヘレロ語)



ナミビアの人たちが「私の友達!」と呼んでくれると、うれしい気持ちになります。これからも友好を深めていきたいと思っています。

ふくしま らん
福島 風さん
(小学校教育・2018年度3次隊)

2020
の抱負

2020年に中学生に進学できるように、勉強をがんばります。私は生物や環境の学習が好きで、生き物がどうやって環境に適応してきたかに興味を持っています。ほかにも、将来の成功につながる教科を学び、家族を幸せにしたいと思っています。夢は、自分の学校を開いて、子どもたちのために勉強を教えることです。中学校でも素敵な友達をつくり、先生や友達、家族への尊敬の気持ちと愛を忘れずに過ごしていきたいです。

2020
の抱負

2020年に私がやりたいと思っていることは、現地の教員や町の人々と共同で活動を企画していくことです。19年2月に赴任して以来、担当の授業やクラブ活動を準備、運営してきました。20年は「1人ではなく、誰かと一緒に」活動の幅を広げていきたいです。同僚と協力して低学年の授業を計画することや、他の隊員や町の人々と一緒に、子どもたちの進路選択の役に立つような企画を実施することなどに挑戦していきたいと考えています。

福島さんの活動概要 ▶▶▶カメル小学校に配属され、児童の理数科目の学力向上と、アートやクラブ活動を通じた情操教育に取り組んでいる。

AFRICA
マダガスカル

“ありがとう”
ミサオチャ
(マダガスカル語)



マダガスカルのために活動してくれるボランティアたちに「ありがとう」の言葉を伝えたいです。

ラクトウアリマヴァナ・
ニリナさん
(福田さんの活動協力者/食堂経営者)

“がんばれ”
マストゥア
(マダガスカル語)



一日の始まりにお互いに掛け合うこの言葉。「よし、今日もやるぞ!」と不思議な力が湧いてきます。

ふくだとこ
福田智子さん
(コミュニティ開発・2018年度2次隊)

2020
の抱負

不慣れた生活と慣れない文化や言語にとまどい、文字通り生きること必死だった2019年。見返りを求めないマダガスカル人の親切さに支えられながら、さまざまな活動にチャレンジし、試行錯誤することができました。20年は「巻き込みの年」。19年に実施した活動のなかから特に取り組むべき課題に焦点を絞り、任地の人々を巻き込みながら、私の帰国後もマダガスカル人の手で回し続けられる、そんな改善のサイクルづくりに取り組みます。

2020
の抱負

今まで10年以上にわたり、日本人ボランティアたちとさまざまな活動を行ってきました。マダガスカルが抱える栄養不足に関する問題、特に子どもの栄養不足は深刻な問題です。2020年もボランティアたちとともに栄養改善メニューの考案や普及を行い、1人でも多くの子どもが健康に暮らせるようになるための手助けができればと考えています。20年もまた、日本人たちと一緒にチャレンジしていけることが楽しみです。

福田さんの活動概要 ▶▶▶ブングラハ県農業畜産漁業局に配属され、栄養改善や農村部の生活改善に取り組んでいる。

“春分祭”

ナウルーズ
(ウズベク語)

春に生命の再生を祝う祭りで、「スマラク」という麦芽を甘く煮込んだ食べ物をつくり、皆でひと晩中祝います。2500年続く大切な行事です。



アブドゥハキモヴァ・ゴザルさん
(齋藤さんの教え子/配属校の生徒)

“お客さんは友達”

メフモンドストハルク
(ウズベク語)



配属校の校長先生がよく言う言葉で、私は現地の人に助けられることが本当に多く、日々この言葉を実感します。外国人を差別せず、友達のようにかわる彼らの姿勢を見習いたいです。

さいとうかなこ
齋藤佳菜子さん
(美容師・2018年度3次隊=写真右、
左は同僚のモヒナイリーナ・アレクサンドロフナさん)

ASIA
ウズベキスタン

ASIA
中華人民共和国

“恒者大成”

ヘンジャーダーチェン
(中国語)



「がんばり続ける人は、必ず成功する」という意味の言葉です。

薛爽(シュエ・シュアン)さん
(柴山さんのカウンターパート/
配属校の日本語教師)

“水到渠成”

シュイダオチューチェン
(中国語)



「水が流れると土が削られ、自然と溝が出来上がる」、引いては「勉強すると、自然と徳も備わってくる」「物事は手を加えずとも、時がたてば自然と思いつりになる」という意味の言葉です。

しばやまただくに
柴山正州さん
(日本語教育・2018年度1次隊)

2020
の
抱負

2019年は佳菜子から浴衣の着付けや日本ズベクのスタイルとは結構違います。将来は、25歳までに美容師のマスターになって、女性が美しくなるためにたくさん働きたいです。マスターになったら弟子をとって、自分の持っている技術を伝えていきたいです。そのため、20年は佳菜子からカットやメイクなども習い、卒業後はサロンに弟子入りし、美容師としての修行をがんばります！

2020
の
抱負

この国では独自のヘアセットの技術が発展しており、2019年は私自身も美容師として学ぶことの多い1年でした。最初は戸惑っていた生徒たちも、今は「日本のスタイルを教えてください」と言ってくるが増えました。感性も育ち盛りの生徒たちには、この国の文化を大切にしつつ、さまざまな国の美容に興味を持てるよう、多くのことを教えたいです。20年は口を挟みすぎず、生徒のやりたいことを大切に、一生懸命を全力で応援したいです。

齋藤さんの活動概要 ▶▶▶ クイリックサービス業高校(職業訓練高校)の美容科に配属され、教員や生徒への技術指導に取り組んでいる。

2020
の
抱負

2020年の抱負は、「大学入学試験で生徒たちに良い成績を取らせる」です。初めて高校3年生の担当となつてから、生徒たちと必死にがんばってきましたが、そのうちに自分の先生としての不足点もだんだんとわかるようになりました。まだ経験不足なので。あと半年で生徒たちが卒業する予定です。柴山先生と一緒に、もっといい方法を見つけ、もっとがんばって、生徒たちと一緒に後悔しない学校生活を過ごしたいです。

柴山さんの活動概要 ▶▶▶ 内モンゴル自治区通遼市カールテン区第三中学校に配属され、学生の作文指導や、日本語運用能力向上のための授業に取り組んでいる。

“準備する”

プロストウータヘバ
(オリア語)

いい結果を出すためには、準備をすることが大事です。次の大会でいい結果を出せるよう、練習をしてしっかり準備をしています。



プラテヤシャ・レイさん
(渡部さんの教え子/
高校生の水泳選手)

あいさつの
言葉

ナマスカール
(オリア語)

一日の始まりはこの挨拶から。インドに来てから心がけていることで、大切な言葉です。指導している子どもたちにも、挨拶することを徹底させています。

わたなべこういち
渡部巧一さん
(水泳・2018年度2次隊)

ASIA
インド

“強さ”

クラン
(クメール語)

「強さ」は人々に良い結果をもたらします。スポーツの世界では、この「強さ」こそが、勝利へと私たちを導いてくれます。



ニュー・コムサットさん
(川俣さんのカウンターパート/
配属校の体育教師)

“一緒に”

チアムオイ
(クメール語)

私が活動で大切にしているのは「現地の先生と一緒に」ということなので、この言葉を選びました。



かわまたな おこ
川俣奈緒子さん
(体育・2018年度1次隊)

ASIA
カンボジア

2020
の
抱負

2019年はとてもいい年でした。練習環境の変化、練習に対する気持ちの変化などもありました。結果としては、全国大会でメダルを獲得することができました。今年も水泳が楽しいです。20年は、今以上にタイムを上げることができるよう、練習もしっかりやっていき、大会で良い結果を出して東京五輪を狙ってきたいです。また、大学受験もあるので、高校のテストも結果を出せるよう、文武両道でがんばります。

2020
の
抱負

2019年は練習環境を整えるところから始め、日本代表としての選手経験や長年の指導者経験を生かしながら、練習内容の改善やウエイトトレーニングのメニュー作成などに取り組みました。その結果、全国大会で3人の教え子がメダルを獲得！順調に活動を進めることができました。20年は環境も整ってきたので、さらなる向上を目指してしっかり練習を行い、大会で良い結果を出して東京五輪に出場できるよう、選手とともにがんばりたいと思います。

2020
の
抱負

私が2020年に実現したいことは3つあります。1つ目は、「体育」という言葉とその概念を生徒たちが理解することです。2つ目は、生徒たちが「体育」を好きになることです。そして3つ目は、生徒たちが「体育」で学んだことを自ら普及し、彼らのみならず、そのコミュニティに所属するすべての住民が「体育」に親しみをもち、彼らの健康の促進につながることです。

2020
の
抱負

2019年は配属先の現状を知ることから始め、今までに行ったことのないウォーミングアップゲームやリズムエクササイズの授業を行いました。同僚とのコミュニケーションばかり大切にしていたので、20年は生徒の名前を覚え、生徒とのコミュニケーションも大切にしていきたいです。また、ウォーミングアップゲームのレベルアップを図るほか、マット運動やカンボジアの伝統的なスポーツも授業に取り入れて、授業の質も上げていきたいです。

渡部さんの活動概要 ▶▶▶ オディシャ州政府青少年スポーツ局に配属され、選手やコーチへの指導を通じて、州の競泳レベル向上に取り組んでいる。

川俣さんの活動概要 ▶▶▶ バットンバン州のサウハー中学校に配属され、体育教育の普及や指導書に沿った授業実践に取り組んでいる。

CENTRAL AMERICA

パナマ

“無敵”

インベンシブル
(スペイン語)

常にこの言葉を胸に秘めることで、さまざまな困難に立ち向かうことができます。

リリア・ピティさん
(中野さんのカウンターパート/
配属校の数学教師)



“調子は
どうだ”

メト
(スペイン語)

任地周辺の方言です。この言葉が村人との距離を縮め、私をポケテニヨ(任地の村人の総称)にしてくれました。

なかのけいた
中野景太さん
(数学教育・2018年度1次隊)



CENTRAL AMERICA

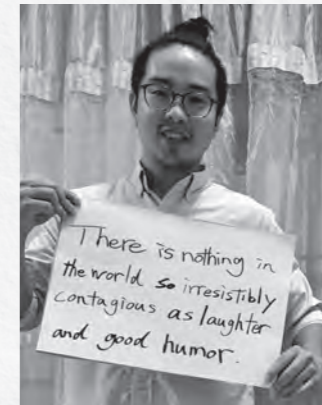
セントビンセント

“笑いと上機嫌
ほどうつりや
すいものもない”

(英語)

英国の作家、ディケンズの引用ですが、配属先の人たちは本当によく笑い、そういう雰囲気づくりを大事にしたいので、この言葉を選びました。

おかゆうき
岡 優樹さん
(マーケティング・2018年度3次隊)



“注意を無視
すればトラ
ブルになる”

(英語)

直訳は「鶏は逃げる前に鍋に入れる」です。英語に訛りがあるカリブ諸国のどこでも通じ、言いやすく、ウィットに富むから選びました。

ダニエル・チャールソンさん
(岡さんの同僚/配属先のメンバー)



2020の抱負
2020年の目標は、生徒のためにより良い授業を一生懸命模索する一方、地域の小学校の先生たちが数学を魔法のように教えられるよう活動を続けることです。19年の活動では、ボランティアとお互いの経験を共有し、教育の改善をするために必要なさまざまなことが学べ、非常に有意義でした。学びたい意欲のある生徒や、授業法について質問をしてくれる地域の小学校の先生たちのために働くのがとても楽しかったです。20年も継続していきます。

2020の抱負
「今を大切に生きる」とです。パナマでの活動も残り半年ほどになりました。19年は配属校の校舎が工事で3カ月ほど使えず、机や黒板のない環境で授業が行われ、大変な時間を過ごしました。残りの半年間は、お世話になった同僚や生徒のために一生懸命働き、彼らと過ごせる残りわずかな時間を大切にしたいです。また、帰国後はパナマの人々のように「敬天愛人」の心構えを大切に、自分の可能性を広げていきたいです。

中野さんの活動概要 ▶▶▶ ペニグノトマスアルゴテ中・高等学校に配属され、授業法の共有や、地域の小学校と中学校の連携づくりに取り組んでいる。

2020の抱負
健康に過ごすこと、それが一番です。もうずいぶん長く同僚のアズランから習っている家具の修理も一人前になりたいです。もちろん、ユウキが教えてくれるクラフトも。それから、私はクリケットが好きなのですが、機会があれば久しぶりにやりたいです。2019年はユウキを通して新しい人に会ったり、知らなかったことをたくさん知ることができたり、20年も新しい人に会ったり、新しいことをたくさん知れたらいいなと思います。

2020の抱負
1年目の2019年は、視覚に頼らないで日常生活を営む人々と活動するという異文化に、日々驚きでした。そのなかで、私は彼らの目となり口となり、彼らの活動を積極的に発信し、テレビ取材を受けることができ、彼らに大きな注目を集めることができました。20年のテーマは営業力。1年目は広報・啓発活動はある程度うまくいきましたが、商売はいまいちでした。少しでも多くのお金を彼らが稼げるように知恵を絞りたいと思います。

岡さんの活動概要 ▶▶▶ セントビンセント視覚障害者協会に配属され、障害者の所得向上支援や障害の啓発活動に取り組んでいる。

SOUTH AMERICA

チリ

“共感”

エンパティア
(スペイン語)

仕事では日々、多くの利用者さんと接しますが、それぞれの人の立場に立って考えることがこの仕事にとって大切なから、この言葉を選びました。

ベレン・サラサルさん
(安藤さんの同僚/
配属先の作業療法士)



“新たな一歩を
踏み出す”

サリール アデランテ
(スペイン語)

困難や苦境に立ち止まらず、常に前を向いてそこから抜け出そうとする強い意志とたくましさを感じる言葉です。

あんだうと きこ
安藤登己子さん
(SV/理学療法士・2017年度3次隊)



2020の抱負
平和な状況で大好きな仲間たちと一緒に仕事をし、そして大好きな人たちと一緒に時間を共有することが2020年の願いです。そのためにも、現在、混乱の中にあるチリが平穏を取り戻し、社会的に納得できる環境ができるだけ早く整うように望んでいます。(安藤さん注・個人第一主義が目立つチリの人たちの中で、彼女の対人姿勢には常に「相手のことを思いやる」心を感じます。国も文化も世代も異なるベレンですが、私の大切な友人です！)

2020の抱負
2020年の1月には真夏のチリを離れて雪の降る富山へ帰国します。多くの仲間にも恵まれて充実した活動でしたが、19年末にチリ国内での混乱が起きてからは十分な活動ができず、やり残した気持ちが大きいです。この経験から、帰国後は、日本在住の外国人の方が困難な状況にある時にお手伝いできたかと思っています。もちろん、ラテンで学んだ明るく楽しく大笑いしながらのリハビリも、日本の高齢者の方々のために実践したいです！

安藤さんの活動概要 ▶▶▶ テムコ市地域リハビリテーションセンターで、利用者向けの体操指導や在宅生活の援助指導に取り組んでいる。

SOUTH AMERICA

アルゼンチン

“まあまあ”

マスオメノス
(スペイン語)

アルゼンチンの人たちの生き方そのものを表している言葉だと思います。この環境、この空気が、心地よく日本人としての呪縛を解いてくれます。

にしおせいじろう
西尾清二郎さん
(日系SV/花き栽培・2018年度3次隊)



“再会”

レーエンクエントロ
(スペイン語)

ボランティア活動を終えて帰国された方々が、またアルゼンチンを訪問され、再会できるのが楽しみです。

たかしやすひろ
高橋靖宏さん
(西尾さんのカウンターパート/
日系花き栽培農家)



2020の抱負
私は人生の3分の2をアルゼンチンで生きています。その間に、数多くのボランティアの方々と交流を持ちました。その方々が言葉の壁、習慣や文化の違いなどから、持っている知識を十分に伝えられない場面を数多く見ました。日系社会と交流して情報を得れば、もっと充実した活動ができると思います。西尾さんは、それをされているボランティアの1人です。これからも、西尾さんのようなボランティアの方とともに仕事をしたいです。

2020の抱負
アルゼンチンの土を踏んでから、早くも10カ月になります。あんなに盛り上がったラグビーワールドカップも、人生2度目の五輪も蚊帳の外ですが、2020年はそれにも勝る経験をこの国で体験できる幸せを噛みしめたいと思います。この国の花き産業を盛り上げてきた日系移民の皆さんとともに、将来を見据えた花き栽培の方向性を探りつつ、これまでの地固めの上に何かを残せるよう後半の活動を楽しみ充実したものにしたいと思います。

西尾さんの活動概要 ▶▶▶ ラプラタ市メルコフロール花市場に配属され、日系人農家に花き栽培を指導している。

EUROPE セルビア

“幸せな
仕事”
スレチャン ラードウ
(セルビア語)



仕事をがんばっていることを互いにたたえ合うときに使う言葉です。日本語の「お疲れ様」に近いニュアンスだと聞きました。

イエレナ・ラディヴォイェビッチさん
(宮城さんのカウンターパート/配属先の職員)



“ありがとう”
フヴァラ レポ
(セルビア語)

セルビア人は、何に対してもすぐにお礼を言います。感謝の気持ちを伝えることは、どこでも大切なのだと実感します。

みやぎゆうや
宮城勇也さん
(障害児・者支援・2018年度3次隊)

2020の抱負
2019年は、日本人ボランティアを受け入れるなど、私たちの協会にとっても新しいことにチャレンジした1年でした。宮城隊員と一緒に活動することで、私たちも多くの学びことができました。日本人ボランティアが配属されていることが、多くの方に協会の活動を改めて知ってもらえるきっかけになりました。20年も、宮城隊員を含めたメンバーで、さらに協会の活動の幅を広げていけるようがんばっていききたいと思っています。

2020の抱負
セルビアに来て早1年が経とうとしていきます。任地での生活、配属先での活動にもだんだんと慣れてきたところです。初めのころは、言語の壁や人々の時間の概念などにより難しさを感じることもありましたが、今では活動でかわる子どもや同僚との関係性も良く、充実した日々を過ごすことができています。2020年は、躊躇せずに自分からイベントを提案できるように努めていきたいと思っています。残りの時間を悔いのないように楽しみます。

宮城さんの活動概要 ▶▶▶ ベオグラード障害者スポーツ協会に配属され、障害者へのスポーツを通じた余暇の支援やスポーツ選手育成に取り組んでいる。

OCEANIA ミクロネシア

“話す”
シャム シャム
(コスラエ語)



コスラエ島へ来て、話すことの大切さ、話さなければ伝わらないことが多いことを感じ、この言葉を選びました。

たなかひろき
田中大樹さん
(環境教育・2019年度1次隊)

“がんばれ”
カンバレ
(コスラエ語)



コスラエ島には「がんばれ」にあたる言葉がありませんでしたが、昔、日本人がこの言葉を持ち込みました。人々が「カンバレ」と言うことが希望が湧き、辛いこともできるようになり、あきらめない力になります。

ビトウイン・ティルファスさん
(田中さんの同僚/
配属先の職員(GIS specialist))

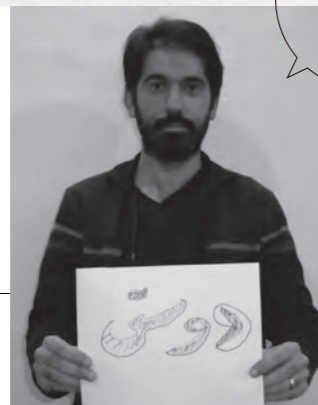
2020の抱負
2020年の目標は2つあります。一つは日本語を学ぶことです。昔、コスラエ島では、私の祖父を含め、多くの人が日本語を喋ることができました。いつか日本を訪れ、日本文化を学ぶために、祖父のように日本語を話せるようになりたいです。2つ目は、私の専門であるGISのスキルを高めることです。ドローンを使い、コスラエの人々のためにわかりやすい3Dマップをつくることで、人々の生活を向上させることが目標です。

2020の抱負
2020年の抱負はコスラエ語の向上です。現状は、子どもたちとの何気ない会話も仕事の会議も、同僚の力を借りないと理解するのに時間がかかります。少しでもコスラエの方々との距離を縮められるように、そしてこの島の方々の力になれるように、毎日島の多くの人と話し、コスラエ語で仕事ができるレベルまで向上させたいです。19年は多くの方々に助けていただいてばかりだったので、20年は少しずつ恩返しできたらと思います。

田中さんの活動概要 ▶▶▶ コスラエ州政府の資源管理局に配属され、小学校での環境教育や地域住民への環境啓発活動に取り組んでいる。

MIDDLE EAST イラン

“友情”
デュシティ
(ペルシア語)



JICAのお手伝いをした経験があり、今回は通訳者や翻訳者の立場で日本庭園の勉強をすることができました。両国の友情が永遠に続くことを願います。

ペイマン・
ハジシャフィーファさん
(小松さんの通訳者・翻訳者)



造園設計でペルシア語の文字をモチーフにした線形の導入を検討していたときに、ペイマンさんが私のつくった設計図(写真で小松さんが手にしているもの)を見て、「滝の流れの箇所が『デュシティ(友情)』と読める」とアドバイスしてくれました。刮目(かつもく)です。

こまつきよし
小松清さん
(短期SV/造園・2019年度派遣)

2020の抱負
2019年はラシュト市に日本庭園をつくるプロジェクトのお手伝いをしました。会議での通訳や技術資料の翻訳もあり、大変でしたが、有意義だったと思います。20年は造園工事をする年です。日本庭園が完成したら、家族や親友を案内し、庭園内に配置される予定の「つくばい」や「灯笼」、「心字池」、「心」をかたどった池の話を書きます。また、19年には忙しくて行くことができなかった家族旅行も楽しみです。

2020の抱負
2019年は、イランと日本の外交関係樹立90周年のタイミングで、日本庭園をつくる計画がスタートし、そこに私はSVとして参加しました。ちょうど70歳で、古代世界を席卷した庭園様式を持つイランで日本庭園をつくれるなど、身に余る栄誉です。20年にはこれが完成します。楽しみです。これからの機会があれば挑戦し、いろいろなことを見聞したいと考えています。若い人がもっと国際協力の世界で活躍するのを望みます。

小松さんの活動概要 ▶▶▶ ラシュト市土木・都市空間整備機構に配属され、日本庭園の計画設計に取り組んでいる。

OCEANIA キリバス

“幸運を”
テケロイ
(キリバス語)



日常では「元気でね」「よい週末を」というニュアンスで使用されます。他者の幸せを考える言葉が自然に発せられるのは素敵だと思いました。

みしましおり
三島史織さん
(看護師・2019年度1次隊)

“こんにちは”
マウリ
(キリバス語)



キリバスでは昼夜を問わず使われる言葉で、初対面でも知り合い同士でも、このひと言で挨拶と「元気?」という問いかけができます。

ナカウ・シオンさん
(三島さんの同僚/
配属部署の看護師)

2020の抱負
救急看護は専門性の高い分野です。原因が特定されていない患者さんの症状を観察し、サインを見落とさないよう自分の知識を駆使しつつ、マネジメントしていくことが求められます。さらに、小児から高齢者までさまざまな年代の患者さんに関する知識を持つ必要があります。そのため、救急外来の看護師は、最新の知識と技術を取り入れていくことが求められます。2020年は、勉強会や海外研修で自身の知識や技術を高めていきたいと思っています。

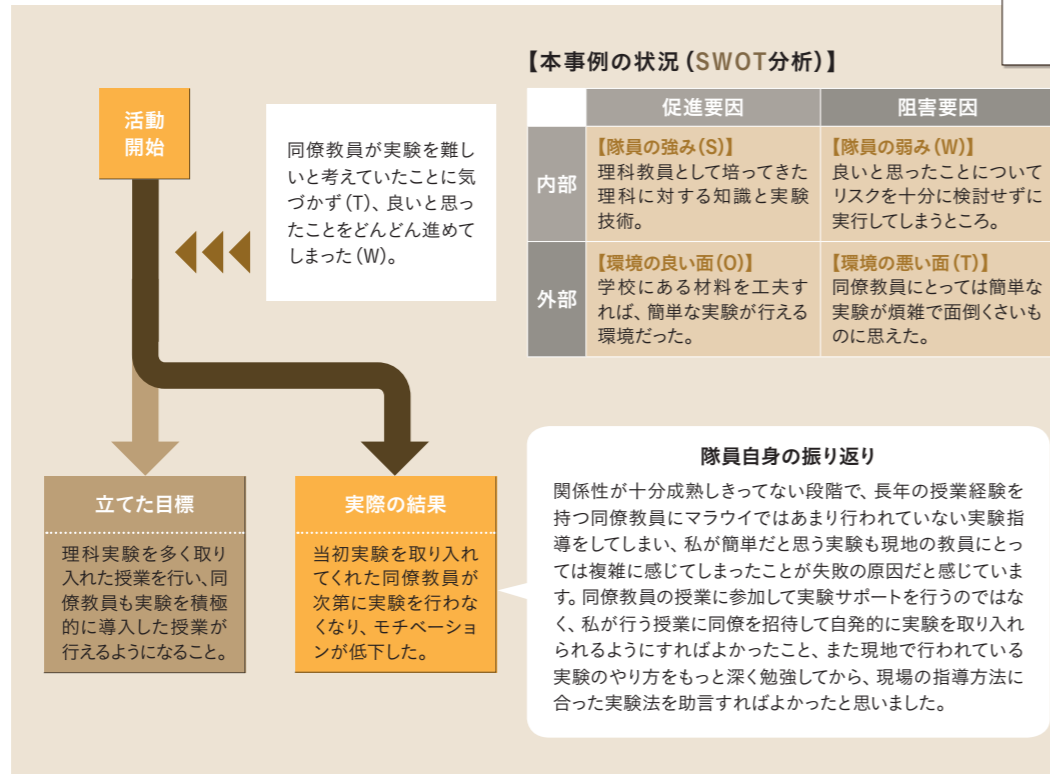
2020の抱負
配属当初より同僚看護師とともに患者さんの治療・処置に当たり、その都度知識・技術の助言に努めてきました。約4カ月が経過しましたが、これからが大事な時期だと思っています。キリバスは医療物品や薬などをすべて輸入に頼っているため、必要なときに必要なものが準備できていないということが多々あります。より円滑な治療が行えるよう、限りある医療環境だからこそ、物品管理の徹底・感染対策に取り組んでいきたいと考えています。

三島さんの活動概要 ▶▶▶ 国内最大の基幹病院の救急外来部に配属され、現地看護師の知識の底上げや彼らへの技術指導に取り組んでいる。

“失敗”から 学ぶ #177



事例整理



授業を改善したいという 強い思いが空回りしてしまった

文〓竹本大起さん(マラウイ・理科教育・2017年度2次隊)

私はマラウイの中等高等学校で、第1学年の化学の授業を担当した。現地教員と同じように授業案を作成して授業を行い、定期テストによって生徒の成績をつけるものであった。配属先上司からは「可能な限り実験を取り入れて生徒の理解を深めてほしい」と求められた。

活動当初、私は日本での教員経験を生かし、簡単な実験を授業の導入に用いたり、理科室を使って生徒参加型の実験を行ったりしていたが、同僚の理科教員の授業ではあまり積極的な実験が行われていないことが気がかりであった。要請内容にも現地教員に対する理科指導法の助言という項目が含まれていたため、同僚教員にも理科実験を取り入れた授業をしてもらえよう、日本でよく行われる実験を紹介し、実験を授業の進行にスムーズにつなげられるような授業展開の助言を行った。

その後しばらくは、紹介したいくつかの実験を授業に取り入れてくれたが、モチベーションが低下したのか徐々に実験が行われなくなり、以前のような状態に戻りつつあった。私も同僚の授業を訪ね、授業サポートなどをしていったが、モチベーションの向上は見られなかった。

配属から5カ月ほどが経ち、同僚たちとの関係も深くなってきたころ、活動当初から悩んでいたそれらの現状を実験助手の教員に相談する機会があった。私は彼らに「なぜ彼らは授業に実験を取り入れないのか。授業に対するやる気がないのだろうか」と半ば不満をぶつけるように質問した。すると彼らから「やる気がないわけではない。彼らも授業に実験を取り入れたいと思っただけだ。ただ彼らにも彼らのやり方がある。活動を始めたばかりの君からもう助言を素直に聞き入れられなかったかもしれないし、君が簡単だと思う実験も彼らにとっては複雑で難しかったのかもしれない」と言われた。そのとき初めて、私の助言や指導が彼らのプライドを傷つけていたのかもしれないと感じた。

時間の経過とともに、私は職場に慣れ、身の上話もするなど互いの理解がより深まってくると、同僚が私の授業を見に来てくれる回数も増えてきた。同僚からも「君が授業で行っていた実験を教えてください」と言われることも増えてきたが、活動当初に授業を改善したいとの強い思いが空回りして結果として活動がうまくいかなかったことは反省すべき点であった。

他隊員の分析

真っさらな気持ちで本音を調査する

現状把握が足りなかったことが失敗の原因だったと考えます。上司の意向のみで動いてしまい、現場にいる教員たちの本音調査が不足してしまったのではないのでしょうか。例えば、楽をしてお金が欲しいという考えの人もいるので、相手の状況によりアプローチ方法は変わってきます。私の場合は、まずひとりずつと交流を持ち、集団の目的と個人の目的が異なることを前提に本音を調査しました。真っさらな気持ちで聞いていきます。また、同時に向こうから頼まれた雑用を手伝ってみます。自分の範囲でない仕事も一緒にすることで、さまざまな発見があったと感じました。

文=協力隊経験者

- アフリカ・理科教育・2017年度派遣
- 取り組んだ活動

キリスト教系私立中等高等学校にて、理科教育を実施。ひとりで中学1年生、中学2年生の授業を行う。現地で調達可能なもので実験を考案し、実施した。日本との文化交流も行った。

授業への不安を解消する

現地の教員たちは実験を取り入れる気持ちはある一方で、経験が少なく、自信を持って実践できないというコンプレックスがあったのかもしれない。本事例の場合、隊員が彼らと打ち解けた関係になることで、わからないことを聞きやすい環境が生まれ、最終的に実験を理解して取り入れてくれたのかと思いました。私の場合は、現地の理科教員が交代で実験を紹介していくワークショップを企画し、教員同士が教え合える場をつくりました。失敗を気にせずに経験を積める場を提供したことで、教員たちも実験を理解し、自信を持って授業に臨めるようになったと思います。

文=協力隊経験者

- アフリカ・理科教育・2017年度派遣
- 取り組んだ活動

中等高等学校で理科の教員として活動を行った。日頃の業務として生徒に対して化学や物理の授業を行うが、現地の教員に実験指導をすることにも力を入れた。



中等高等学校の2年生(日本でいう高校1年相当)の化学授業で、酸とアルカリの実験を実施したときの様子。身近な植物の草や花びらをすりつぶし、こしたした色水から、酸アルカリの指示薬(酸とアルカリによって色が変わり判別できる試薬)をつくっているところ。授業の前に外で生徒たちがそれぞれ好きな植物を取ってきた



PROFILE

1989年生まれ、埼玉県出身。2014年、東京理科大学大学院総合化学研究科修士課程を修了後、加藤学園高等学校に理科教諭として3年間勤務し、退職。17年10月、理科教育として協力隊に参加。19年10月に帰国。

活動概要

- モンキーベイにあるリスンビュイ中等高等学校で物理と化学の授業を担当し、主に以下の活動を行う。
- 実験を導入した理科指導
- クラブ活動や校外活動によって理科に対する興味関心を育成

派遣人数は少ないもの
いぶし銀の活躍をする
職種の事例をピックアップ

#H103

歯科衛生士

派遣中 ▶ 1人

累計 ▶ 47人

分類 ▶ 保健・医療

活動例 ▶ 歯科衛生士や治療助手に対して
技術向上のための指導 など

類似職種 ▶ 歯科医師 など

※人数は、2019年11月30日現在。



歯科衛生士に歯茎の下にある歯石の取り方を伝える小原さん。パラオには歯科衛生士学校がないため、就職後に働きながら学んで、歯科衛生士になる。「それが理由で、歯科衛生士たちに意識や知識の差があったのかもしれない」と小原さんは振り返る

PROFILE

1980年生まれ、岩手県出身。2001年、旧岩手県立衛生学院・歯科衛生学科を卒業後、開業医の歯科医院に勤務。その7年後に退職し、ワーキングホリデーで2カ国に合わせて2年滞在。その後、地元の開業医に勤めたのち退職し、15年1月に協力隊としてパラオの国立病院に派遣される。18年4月に帰国。現在は、再び開業医の歯科に勤務。

活動概要

- パラオ唯一の総合病院であるベラウ国立病院の歯科で、現地スタッフや地域住民を対象に主に以下の活動を行う。
- 現地歯科衛生士への知識・技術面の指導
- コミュニティでのイベントに参加し、患者を含めた地域の方に啓発活動
- 院内のソフト・ハード面の改善点の提案・実行



おぼろはるこ
小原 晴子さん
(パラオ・2015年度3次隊)

#D211

金属加工

派遣中 ▶ 2人

累計 ▶ 113人

分類 ▶ 鉱工業

活動例 ▶ 専門学校などで学生への金属加工の基礎技術の指導 など

類似職種 ▶ 溶接、精密機器 など

※人数は、2019年11月30日現在。



10トン大物ルツボを製造中の現地技術者と平野さん(中央)。インドネシアはスズの生産量が世界有数。大物ルツボ製造品は、半球状の形をしており、採掘したスズを溶かして大きな鍋に入れるときに使用する

PROFILE

1949年生まれ、新潟県出身。67年に新潟県立直江津工業高等学校・機械科を卒業後、地元の鋳造工場・大平洋特殊鋳造株式会社鋳造課に入社。31年間勤務後、50歳を機に長年の夢だったJICA海外協力隊に初参加。マレーシア、メキシコ、アルゼンチン、ポリビア(2度)、インドネシアと6度、金属加工(※)のSVとして派遣された。現在は、地元の精神病患者の社会復帰厚生施設で支援員として活動している。

活動概要

- 国営BARATA重工業にて主に以下の活動を行う。
 - 5S・不良品対策などの指導
 - 従来、輸入品に頼っていた「10トン大物ルツボ製造品」の国内製造に携わる
- ※金属加工のほか、金型鋳造、鉄鋼・非鉄金属、鋳造・冶金の職種名で派遣された。



ひらの ただし
平野 正さん
(SV/インドネシア・2015年度2次隊)

勤続年数が長く、問題を問題と感じていないやり方で診療してきたために、その意識改革やモチベーションを上げることに苦労しました。また、パラオの文化として日本のような年功序列の慣習があり、プライドも高いため、「teach」という言葉を出すと受け

Q 活動の最大の困難は？

SVとして6度派遣され、マレー語圏、スペイン語圏で活動しましたが、どこの国でも活動中、最大の困難はやはり、コミュニケーションツールの言語だと思いました。こちらの意思を技術移転先に伝えたくても言語が壁となり、うまく相手に伝わらず辛い思いをしたことが幾度となくありました。また、技術移転の際に現地の機材不足にも困っていました。

Q どう対応しましたか？
言語については、技術的なことを伝えるときに、イラストを多用したり、縮尺模型を使ったりして意思疎通を行いました。活動中は必ず、巡回指導後、その国の言語でレポートを作成し、カンターパート(以下、CP)及び巡回先鋳造工場やJICA現地事務所へ提出し、活動内容を周りに伝えてい

Q メインの活動は？

40〜50代の男女10人の歯科衛生士(以下、衛生士)があり、経験年数は10〜20年と長期の一方、歯科医療に対する知識や意識にはそれぞれ大きな差がありました。実際の診察では患者のデンタルIQの低さも実感したので、スタッフ教育に加え、私の帰国後に患者が口腔ケアに関する知識を継続して深めてもらえる活動を目指しました。

Q 活動の最大の困難は？

SVとして6度派遣され、マレー語圏、スペイン語圏で活動しましたが、どこの国でも活動中、最大の困難はやはり、コミュニケーションツールの言語だと思いました。こちらの意思を技術移転先に伝えたくても言語が壁となり、うまく相手に伝わらず辛い思いをしたことが幾度となくありました。また、技術移転の際に現地の機材不足にも困っていました。

Q メインの活動は？

インドネシア国営BARATA重工業で現地の技術者と共に、国内初となる大物鋳造品の製造に携わりました。製造過程で幾度も失敗を重ね、数百万円の不良品の山を築いてしまいましたが、宗教、文化、言語、習慣の違いを越え、現地の同僚と苦悩し汗を流すことで、日本の「モノづくり」の心を伝えることができたと思っています。

Q 活動の最大の困難は？

SVとして6度派遣され、マレー語圏、スペイン語圏で活動しましたが、どこの国でも活動中、最大の困難はやはり、コミュニケーションツールの言語だと思いました。こちらの意思を技術移転先に伝えたくても言語が壁となり、うまく相手に伝わらず辛い思いをしたことが幾度となくありました。また、技術移転の際に現地の機材不足にも困っていました。

した。レポート作成時には多忙であってもCPに添削を依頼し、コミュニケーションをする機会を増やすことができました。活動終了時に溜まった100部近い現地語レポートは最終報告書として製本して活動先やJICA現地事務所へ提出し、派遣先から貴重な財産になったと喜ばれました。

Q 派遣予定の後輩隊員にメッセージをお願いします。

活動に際し、どこの派遣国でも感じたのですが、今はインターネットの世の中であり、派遣国の技術者たちも平均的な技術を習得しています。協力隊員も、それなりの技術力と人間性を備えていないと、受け入れてもらえませんし、こちらの技術移転提案や改善提案を受け付けてもらえません。上から視線ではなく、相手をリスベクトする気持ち忘れず、お互いを認め合って活動を進めてください。そしてぜひ日本の「モノづくり」の心を開発途上の技術者に伝えてほしいと思います。

Q 試みた解決策は？

衛生士の約半分は向上心があり協力的だったので、その人たちを中心に話を進めて周りを巻き込んでいきました。「講義を受けたくない」とはつきり言われたこともありましたが、希望の日程に合わせることや、興味がある講義の内容にし、講義をする日時などは事前に伝えるようにしました。また、「teach」ではなく「share my experience(経験を共有する)」という方が受け入れられました。

Q 同職種の後輩隊員にメッセージをお願いします。

この職種には目で見えないところで衛生士の技術を判断する「歯肉緑下スケーリング」*2などがあります。歯科医師から「衛生士が歯茎の下の歯石を取り切れているか確認してほしい」と伝えられましたが、衛生士たちには「自分たちはできているから」と拒まれました。私は衛生士が拒むことまではやりませんが、信頼関係を崩さないための見極めは大切だと思います。良い関係を築けていけば受け入れてもらえますし、多少のずれ違いによる失敗は修復しやすいと思います。その国や地域で求められていることや改善点を見つけて小さいことでも挑戦してみてください。応援しています。

*1 デンタルIQ…歯科に関する知識。 *2 歯肉緑下スケーリング…歯茎の下(歯肉ポケットの中)の歯石取り

<p>アルビレックス新潟シンガポール ALBIREX SINGAPORE PTE. LTD. (MYANMAR BRANCH)</p> <p>所在地：ミャンマーヤンゴン市内 設立：2017年1月 人数：3人 事業内容：子どもむけサッカースクールの運営、ミャンマー各地でのサッカーの普及活動 など URL：http://www.albirex.com.sg/myanmar/</p> <p>民間企業に就職</p>	<p>2018 9月、アルビレックス新潟ミャンマーに入社③</p> <p>選択の理由 サッカーにかかわれることを軸に、海外、民間企業、社会貢献活動をキーワードに仕事を探し、マッチングした企業。</p>	<p>2017 1月、青年海外協力隊に参加② スリランカにて、サッカー隊員として、サッカーの普及に従事。</p>	<p>2013 3月、帰国。その後、株式会社インターナショナルスポーツマーケティングに入社。</p>	<p>2010 9月、青年海外協力隊に参加① バンングラデシュにて、コンピュータ技術隊員として、IT試験導入のための促進活動に従事。</p> <p>選択の理由 サッカーコーチの仕事を探しており、国内のスクールも受験したが、協力隊に先に合格！</p>	<p>2008 1月、株式会社アポロ技研開発部入社。</p> <p>選択の理由 海外旅行で日本との貧富の差を感じて、海外で自分にできることはないかと参加。</p>	<p>2002 3月、神奈川県立横須賀高等学校卒業後、株式会社ホンダヘルノ横浜サービス部入社。</p>	<p>1981 神奈川県出身。</p>
---	--	--	--	--	---	---	-------------------------



after
ミャンマーのろう学校でサッカー指導をする米山さん。ろう者への指導を始める前は指導がしっかりできるか不安もあったが、実際に始めてみると気持ちは払拭された。しっかりと話を聞き、理解しようとする姿勢を見ていると、自身の指導のモチベーションも上がると感じている。簡単な連絡事項などは手話で、技術はデモンストレーションなどで伝えられるが、「準備する」「気持ちをつくる」などの概念を伝えることは難しいと感じている。そんなときはろう学校の卒業生であるスタッフにサポートしてもらいながら指導をしている



before after 人生を変えた2年間

before
電子回路の設計者

after
サッカーチームの指導・運営者

米山さんの幼い頃の夢は「サッカーを仕事にして生活をする」。プレイヤーとしてサッカーは続けていたが、仕事にはできなかった。転職は、コンピュータ技術隊員として赴任したバンングラデシュ。同国でたまたまサッカーを教える機会があり、教える楽しさを知ったという。帰国後、サッカー指導者のライセンスを取得し、サッカー隊員として再び協力隊に参加した。現在はミャンマーのサッカースクールでコーチとして働いている。

コンピュータ技術隊員としてバンングラデシュに派遣され、同国においてIT技術者のための試験の導入と運営を目的に、IT企業や大学との連携促進や広報活動を行った。活動のカタチは、日本人学校のサッカーチームにコーチが不足していると聞き、週末はコーチとしてチームに参加。毎週子どもたちが成長していく様子を見ていくうち、プレイヤーとは違った「教える楽しさ」を米山さんは感じるようになっていった。

プレイヤーからコーチへ
小学2年生からサッカーを始め、成人してからは社会人チームに所属し、プレーを続けていた米山さん。「サッカーを仕事にしたい」と思っていた子ども時代は過ぎ、専門学校卒業後は、自動車整備士や電子回路の設計の仕事に従事していた。海外在住の姉の影響もあり「海外っていいな」とほんやり思い、中吊り広告で協力隊のことは知っていたが、「英語は苦手、海外勤務の経験もないし、ハードルが高い」と思い込んでいた。そんなとき旅行先で協力隊員と話し、自分のスキルを生かせる活動があると知り、応募を決意した。

帰国後はウェブサイトの制作の専門学校に通い、その後、Jリーグのウェブサイトの制作などを担当会社に勤務。週末は自身が子ども時代に通ったサッカースクールでコーチをし、指導者のライセンスを取得した。そして、「サッカーを仕事に」を実現するため、2度目の協力隊に参加。スリランカのサッカーの普及のため、小中学校でのサッカー指導や大会の実施などに携わることになった。子どもたちへの指導がうまくいかず、話を聞いてくれないことにイライラすることも多々あった。「でもそれは、自分の実力不足や勉強不足が原因だと気づき、子どもたちやこの国からたくさんの方のことを勉強させてもらっているんだと思うようになっていきました」

「サッカーを仕事に」が夢だった

スリランカ・サッカー・2016年度2次隊
よねやま しんすけ
米山 信介さん



before
スリランカの小学校でサッカー指導をする米山さん

当時を「大好きなサッカーをして、子どもたちとボールを追いかける幸せな毎日」と振り返る米山さん。この先もサッカーにかかわって働き、できれば民間企業に就職したいと思っていた。その理由のひとつは現地の人から「某国は施設をくれたけど、日本は何もくれないの？」と伝えられたからだという。

1指導とスクール運営を行っている。スタッフは日本人2人とミャンマー人1人で、サッカー教室は週に6日開催。指導対象は、日本人学校やインターナショナルスクールの子どもたちと、私立のろう学校に通う低学年から社会人までの5つのチーム。さらに月に2回、養護施設でもサッカーを教えている。ろう学校や養護施設での指導は社会貢献活動のひとつでもあり、日系企業などからスポンサー料を得て運営されるものだ。運動をする機会が少なかった子どもたちはサッカー教室の開催を喜んでおり、スポンサー企業は社会に貢献でき、スクールは利益を得られる。「夢と希望を持ってミャンマーに来て、やりがいもあります。とはいえ、日々の業務で埋もれてしまう思いもあります。例えば養護施設での活動を増やしたいけれど、人や時間が足りなくて叶えられないこともある。今後の課題は「どう継続していくのか」です」

「そう言いつつ、その施設は現地の人だけでは使い方がわからずに施設されていました。『あげる、もらう』の関係だと『あげたら・もらったら終わり』になってしまう。支援ではなくビジネスを通じた関係なら、互いの利益を考えた持続したものになると思いました」
そんなときに知ったのが、サッカースクールのアルビレックス新潟ミャンマーだった。

スポンサーやコーチの求人を増やすために、まず大事なのは「アルビレックス新潟ミャンマー」の活動を知ってもらうことだ。そのために、ウェブサイトで頻繁に活動報告をすることや、取材の応対、インターンの受け入れなども行っている。また、「ろう学校のチームは国際大会などに出場しており、ここでの勝利も目標としていることのひとつ。活躍することで応援してくれる人も増えるはず。すべてのことが次のステップにつながると思っています」と話す。

次の夢を追いかける
米山さんは2018年にアルビレックス新潟ミャンマーに就職し、現在は主にサッカー

その「次」に考えているのが、*ロヒンギヤ難民の子どもたちにサッカー教室を提供することだ。バンングラデシュで活動した経験があるからこそ実現させたいと思っている。

* ロヒンギヤ難民…迫害を受けて国外に避難しているミャンマーの国境地域に暮らすイスラム教徒の少数民族。

座談会参加者



理想 現実

帰国後のとを語り合う

OB・OG 匿名 座談会

第12回 リハビリ分野

帰国後の「新たな挑戦」

A 私は身体障害領域が専門の作業療法士として、病院で急性期と回復期の臨床を渡り歩いた後に協力隊に参加しています。帰国後はまず、大学院に進んで国際協力の修士号を取得し、現在は大学の作業療法士を養成するコースで助教を務めています。

B 派遣前は、通所リハビリ施設の理学療法士として通所リハビリと訪問リハビリに携わっていました。帰国後は、訪問リハビリや障害者の旅行支援事業を行う株式会社で理学療法士として就職し、今に至ります。

C 私は急性期病棟の理学療法士として、主に小児と糖尿病を担当した後、協力隊に現職参加しています。帰国後は、派遣前と同じ仕事に携わるかたわら、DMATや国際緊急援助隊に隊員として登録し、災害医療の活動にも参加するようになりました。これまで実際に派遣されたのは「令和元年台風第19号」の際で、*5 コメディカルの立場でDMATチームのロジスティックを担当しています。

B 帰国した当初、私は地元で在日外国人障害者の支援がしたいという思いがあり、そうした仕事ができる職場を探してみたりもしました。海外でリハビリに携わった経験を生かしたかったからです。しかし、そのような職は見つかりませんでした。今の勤務先は、障害者の旅行支援を行う会社なので、新しい取り組みにも柔軟であり、いずれ在日外国人障害者の支援に携わるチャンスが出てくるかもしれないと考え、就職を決めたのです。

C 私は現職参加ですが、帰国後、Bさんと同じように「派遣前とは違う仕事をしてみたい」と考えるようになり、医療コンサル

なということ、派遣前よりも強く意識できるようになった点です。協力隊時代は訪問リハビリにも携わったのですが、脳性麻痺で歩行器を使わないと歩けない子どもが、学校をたらい回しにされるとい、日本では見られないような事態が派遣国にはありました。学校側が変わらなければ、その子は学校に行けない。「社会モデル」で障害を捉えなければ解決できないという問題を体験したことで、「医学モデル」だけではだめなのだと強く思うようになったわけです。体の基本的な機能の回復を目指す理学療法士と比べると、生活に使う応用的な機能の回復を目指す作業療法士は、「社会モデル」をより強く意識すべきだと思いますが、日本では病院で働く作業療法士が7割にのぼり、それが難しくなっている。そうした点は、作業療法コースの学生を指導する際にしっかり伝えるよう努めています。

C 「社会モデル」が重要なのは、理学療法士も同じなのだろうと思います。私も病院勤務ですから、派遣前は「医学モデル」の意識が強かったのですが、協力隊でCBRに携わったことで、「社会モデル」で障害を見ることの重要性に気づけました。そうして帰国後は、病院のなかで治療する場合であっても、患者さんの「在宅の状態」をイメージしながら行うことができるようになりました。

B 私は派遣前から訪問リハビリに携わっていたもの、患者さんの家の中での治療でしたから、その人が暮らす「社会」まではなかなか意識できなかった。そうしたなか、やはり私も協力隊でCBRに携わり、保健所や市役所、教会など、障害者が暮らす社会のさまざまな機関や人とともに活動に取り組んだので、やはり「社会モデル」への意識は非常に強まりました。

タレントの仕事ができる企業などの就職試験を受けたことがあります。私のように大学で経営を学んでいない者がそうした業界に転職すると、下積み数年間は非常にハードだと聞き、結局は本職を変えずにプラスアルファで「災害医療」に挑戦するということにとどめました。

A 「帰国後は新しいことに挑戦しなければ」という意識は、私も派遣前から持っていました。そうしたなか、日本の大学で国際協力を学ぶ日本人学生に派遣国で出会ったことがきっかけとなり、帰国後は臨床現場に戻らず、大学院で国際協力を学ぶことにしたのです。彼とはよく、国際紛争や環境課題、ジェンダー問題などの世界的課題について夜な夜な議論をすることがあり、同年代の日本人にそんなことを考えている人がいるのだと驚きました。そして、「自分はこれまでリハビリ職の狭い世界の中で生きてきたのだな」と気づき、臨床の枠に止まっていたら損をすると思うようになったのでした。

協力隊による視野の広がり

B Aさんと同じことを、私は派遣前訓練に入っただけに感じました。私より何歳も若いのに、すでに3、4カ国語も話せたり、アメリカとのフェアトレードを経験していたりする同期隊員がいたからです。私は専門学校に入ってから、脳目も振らずに理学療法士の道歩んできたので、「日本にはこんな人もいるんだな」と自分の視野の狭さを実感させられました。

C 私はそもそも、理学療法士としての専門性を高めていった先にどんなゴールがあるのかが見えて来ず、海外で働いて視野を広げればその煮詰まりが解消できるかもしれない

派遣中隊員へのアドバイス

C お話ししてきたような「視野の広がり」は、派遣中に挑戦する活動が多様であればあるほど、より豊かになるでしょう。おそらく多くの隊員の任地は狭いコミュニティであり、そういうところではさまざまな活動に挑戦するチャンスがいくらでも転がっているはずなんです。ですので、派遣中の隊員の方々には、さまざまな人とかわかり、そうしたチャンスを見つけていただきたいと思います。私は、現地のある方の紹介で、サッカーのジュニア・ナショナルチームのメデイカルコーチを務めさせていただいたこともありました。日本では簡単にはできないそうした経験は、なんらかの形で帰国後の仕事や生活の充実につながるのだろうと思います。

B 派遣中隊員へのアドバイスということからひとつお勧めしたいのは、就職活動の際、協力隊活動の様子を収めた写真を1冊のアルバムにまとめ、面接で自分の活動を紹介します。に活用することです。私がそれを実践したところ、イメージがわきやすいようで、採用に前向きになってくださった所が多かった印象です。

A 私は、帰国後に大学教員になった立場で派遣中の作業療法士隊員にお伝えしておきたいことがあります。理学療法士の場合、日本の大学で教員を務めている協力隊経験者は多いのですが、作業療法士は、海外経験を持つ大学教員がまだ少ない。ですので、協力隊経験が大学教員の職を得るうえでの武器になるはずですので、研究に関心のある方は、ぜひ志していたいただきたいです。その際、私はやらなかったために後悔したのですが、なにかしらの論文にまとめることを想定しながら活動するのが有益だと思います。

- *1 CBR…「Community Based Rehabilitation(地域に根ざしたリハビリテーション)」の略。施設の中だけでなく、地域社会とのかかわりの中で行われるリハビリ。
- *2 急性期…病気になる始めた時期。
- *3 回復期…病状が安定し始めた時期。
- *4 DMAT…「Disaster Medical Assistance Team(災害派遣医療チーム)」の略。トレーニングを受け、災害急性期に活動できる機動性を持った医療チーム。
- *5 コメディカル…医師・看護師以外の医療従事者。
- *6 社会モデル…障害者が暮らす社会の障壁を取り除くことで、能力を発揮することができるようにするという考え方。
- *7 医学モデル…障害者自身の機能を回復させることで、能力を発揮することができるようにするという考え方。



B 私も「臨床現場」の仕事ですと続けていくのではなく、やはりいずれは「マネジメント」の仕事に携わりたいと考えています。私の協力隊時代の活動は、地域の人や環境などのリソースをうまく活用しながら、障害者が暮らしやすい地域にしていこうとあり、それも「マネジメント」の一種かと思いますが、そうした活動にやりがいを感じる事ができたからです。具体的には、入居者の生活環境やスタッフ、業務、経営といったさまざまなものの「マネジメント」が必要な、有料老人ホームの施設管理に携わってみたいと考えています。

A 私は、協力隊経験によって作業療法自体に関する視野も広がりました。それは、「社会モデル」で障害を見ていかなければいけ

と思ったのが、協力隊に参加した動機でした。実際、派遣国では理学療法士としての技術以外のことをたくさん学べ、視野が広がったと感じています。特に大きかったのは、配属先の中間管理職の人とともに活動したことで、人や物、お金の「マネジメント」のやり方を学べたことです。そうした学びを生かす方法のひとつとなっているのが、DMATでの活動です。ロジスティックの業務は、チームのマネジメントにかならないからです。また、今の職場では、「業務の効率化」や「コミュニケーション」といった「マネジメント」に関するテーマの勉強会を企画、実施するようになりました。リハビリの技術に関する勉強会はよく開かれていたのですが、そうしたテーマのものはこれまで例がなかったものです。また、間もなく中間管理職になる見込みですので、そうなると私の仕事はさらに「マネジメント」の割合が多くなっていきます。ただ、そうやって管理職の道を昇って定年まで勤め上げるかどうかは、まだ迷っているところなんです。

Aさん(男性)

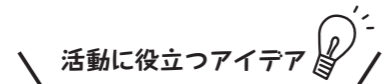
【派遣前】
作業療法士(病院勤務)
【協力隊】
▶退職参加
▶・作業療法士
・アジア
・2014年度派遣
▶通所リハビリ施設での
技術支援などに従事
【現在】
大学の助教
(作業療法コース担当)

Bさん(男性)

【派遣前】
理学療法士
(通所リハビリ施設勤務)
【協力隊】
▶退職参加
▶・理学療法士
・中南米
・2014年度派遣
▶CBR(*1)の支援
に従事
【現在】
理学療法士(訪問リハビリ
や障害者の旅行事業を
行う株式会社に勤務)

Cさん(男性)

【派遣前】
理学療法士(病院勤務)
【協力隊】
▶現職参加
▶・理学療法士
・大洋州
・2015年度派遣
▶CBRの支援に従事
【現在】
理学療法士(復職)



メガネケースの作り方

ナビゲーター = 浦井和美さん
(ガーナ・服飾・2009年度4次隊)

手縫いでつくる方法

日本にいるときより、サングラスを利用し、持ち歩く機会が増えたものの、派遣国では「メガネケース」を見かけなかったのでつくることに。生地1枚を無地、もう1枚を柄生地にすることで、どちらが表面になっても可愛く仕上がるので、ぜひ派遣国ならではの生地やお好みの生地で作成し、楽しんでください。

【材料】

- 厚紙…20×25cm
- 生地…22×27cmを2枚(柄はお好みで)
- 芯地…20×25cm(ないときは、中〜厚手の生地を使用する)
- 面ファスナーもしくはスナップボタン…面ファスナーは2×4cm程度(大きさは目安)、スナップボタンは1組
- 針と糸
- アイロン、チャコペンか鉛筆、ハサミ、まち針、定規



蓋を閉じたケース

①型紙をつくる。上図のサイズに紙をカットし、型紙をつくる。厚紙だと作業しやすい。

②2枚の芯地に①の型紙を置き、型紙と同じ大きさにカットする。これが出来上がり線となる。

③2枚の生地の裏側に、上下左右1センチの幅を開けて、②の芯地を置き、アイロンをかけて接着する。

④貼り付けた芯地の外側1センチを残してカット、2枚ともカットする。

⑤生地2枚を中表に合わせて、まち針で止め、図の中央部を除いて、芯地より少し(1ミリくらい)外側を、細かく並み縫いする。

⑥縫い目から2ミリほど離し、上図の黄色の丸で囲った部分に切り込みを入れ、すべての角をカットする。

⑦中央部の縫っていない部分(矢印の部分)から、生地を指で裏返して表面にする。並み縫いで、中央部が開かないように縫い閉じる(黄色線部分)。

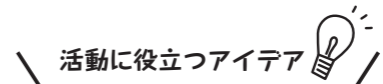
⑧縫っていない中央部を内側に折り入れ、出来上がり線に合わせる。アイロンをし、並み縫いで、中央部が開かないように縫い閉じる(黄色線部分)。

⑨AとA'、BとB'、CとC'、DとD'を合わせ、まつり縫いなどで糸が見えないように縫い合わせる。

⑩糸が見えない縫い方。左の布の縫い目、右の布の縫い目という順番に縫っていく。

⑪数往復したら、糸が見えなくなるまで優しく引く。最後まで縫ったら玉結びをし、結んだ糸を布の中に隠してからカットする。

⑫表側にしたい生地の面を外側にし、フタになる部分(メガネの幅や厚みに合わせて調整)の内側に、面ファスナーやボタンなどを縫い付けたら完成!



スマートフォンで動画づくり① — 企画・構成編 —

ナビゲーター = トランティ美佳さん
(コスタリカ・映像・2018年度1次隊)

企画・構成の3つのポイント

写真や動画を撮影するのに便利なスマートフォン(スマホ)。そのスマホで短い動画をつくるためのプチテクを、3つのテーマに分けて3回連続でご紹介します。ちょっとしたコツを抑えて、発表のツールとして使ってみてください。今回は1回目です。

動画をつくるときに一番大切なのが「企画・構成」。どんなテーマで誰に見てほしい動画なのか、そのために何を撮る必要があるのかを考えます。やり方は人それぞれ違いますが、私が意識している3つのポイントをご紹介します。今回は「配属1年後に行われる中間報告を映像で行うとしたら」という設定の具体例も紹介します。

例: 中間報告の場合

「カウンターパートの●●さん」など具体的に顔を思い浮かべられる人を想像するのがオススメ!

01

ゴール: これからの目標を伝え協力を得る

テーマ①: これまでの活動を紹介

小学校での タジェール実施	300人の 子どもが対象	先生からも 評判が高い
------------------	-----------------	----------------

*タジェール…セミナー

02

テーマ②: 苦労したこと

子どもの人数が多くて1人では対応できない	スペイン語でコミュニケーションが取れない	ドタキャンがとても多い
----------------------	----------------------	-------------

03

テーマ①: これまでの活動を紹介

小学校での タジェール実施 教室全体	300人の 子どもが対象 子どもいっぱい	先生からも 評判が高い 先生と握手
--------------------------	----------------------------	-------------------------

01 「誰に見せる動画」かを決める

動画をつくるにあたって、まず行のが「誰に見せる動画なのか」を考えることです。これは、「どんな内容にするか」「必要な情報は何か」など、動画の方向性を絞るために大切な作業です。ポイントは、「職場のみんな」や「JICA海外協力隊」などのグループではなく、「両親」や「同僚の田村さん」というように具体的な誰か1人を思い浮かべること。そうすることで、その人に伝わるかどうかを基準に動画づくりを進められます。合わせて使いたい音楽も決めておくと、撮影や編集のときの助けになります。

02 ふせんで疑似動画をつくり、情報を整理

動画の内容を考えるため、動画を通して何が伝われば良いのか、ゴールを決めます。中間報告の場合であれば「今までの実績と今後の計画」「苦勞している課題」など、「01」で思い描いた人に何が伝われば動画をつくった目的が達成できるのかを考えてみてください。その上で、設定したゴールに到達するために必要な情報は何かを全てふせんに書き出します。ポイントは、ふせん1枚につき、書く情報は1つだけ。そうすることで、あとで内容を加えたり、削ったりするときに整理しやすくなります。

- やり方 —
- ①動画で何を伝えるかのゴールを決める
 - ②ゴールに到達するために必要な情報を全てふせんに書き出す
 - 動画でメッセージを伝えるために必要なテーマを大きく3〜4つ決める
 - テーマごとに細かい情報(基礎情報・実際に起こった出来事など)を全て書き出す
 - ③書いたふせんを大きな紙に全部貼る
 - ④動画で伝える順にふせんを並べ替え、情報を整理(この作業を納得がいくまで繰り返してみてください)
 - より伝わりやすいと思う順番に並べ替える
 - 必要ない情報=ふせんは取り除く
- このように紙の上で疑似的に動画をつくり、頭の中を整理するのが、この作業の目的です。

03 撮影する映像をふせんに書き込む

「02」のふせんの余白に、撮影する映像を書き込みます。動画は映像でメッセージを伝える手段。字幕やナレーションではなく、映像を使って伝えられるよう撮影すべき映像を細かく想像してみましょう。また、過去の話は写真を使うなど、どんな映像を使うことでより効果的にメッセージを伝えられるかを考えてみてください。ここまでできたら、撮影前の準備完了! 撮影編は次号にてご紹介します。

防犯対策

—こんなとき、どうする!?—

夜道でのひったくりにご注意!

スマホを懐中電灯代わりに使用していたら、

夜間、買い物をするため外出した際、周囲が停電していたため、スマートフォン（以下、スマホ）のライト機能を使用し、路面を照らしながら路上を歩いていた。

スマホを盗られてしまった。

背後から来た人物に右手に持っていたスマホを奪われ、その後、犯人は塀を乗り越えて逃走していった。

解説

もともと狙われやすいスマホを、夜間に懐中電灯代わりに使用して余計に目立っていたことから、極めて高い確率で犯罪に遭う可能性があったといえます。夜間の徒歩移動は極力避け、やむを得ず徒歩移動する場合には、常に周囲の人に注意を払って行動しましょう。また貴重品は露出せず衣服内に隠し持つなどの工夫が必要です。日本人も含めて外国人は目立つ存在で、その上、スマホやパソコン、時計、財布を目に付く状態で携行することは、窃盗を誘発する行為となります。



安全管理担当者からのワンポイント対策

いつも周囲に目を配り、態度で示し「防犯意識が高い人」ということをアピールすることが大切です。

いつ? どこ?

隊員関連イベント情報

JICAやその関連団体が主催・共催・後援などをするJICA海外協力隊関連のイベントをご紹介します。

2月24日 JICA海外協力隊セミナー 大阪

帰国隊員による体験談発表の後、青年海外協力隊の現面接官が面接のポイントをお伝えします。また、職種別に分かれ、座談会にて応募相談を実施します。

いつ? 2月24日(月・祝) 13:30~16:30
どこ? AP大阪茶屋町(大阪市北区茶屋町)
https://www.tc-forum.co.jp/ap-umedachayamachi/access/

1月11日 第三回 国際看護教育セミナー 東京

今年度のテーマは「多文化共生と看護職の役割」。多文化共生時代に活躍できる看護職とはなにか、私たちJICA海外協力隊経験者とともに考えてみませんか?

いつ? 1月11日(土) 13:30~16:00(申込締切:1月6日、定員:40名)
どこ? JICA地球ひろばセミナールーム600(東京都新宿区)
詳細 JOCV看護職ネットワーク https://jocvnurse.wordpress.com/

4月11日~ 活動で結果を出すためのコミュニティ開発講座 愛知他

JICA中部と有限会社人の森は、4月からの2年間のべ10回にわたり、地域住民の自立と経済的発展を目的としたコミュニティ開発のために、アウトプットと費用対効果の向上をめざすスキルアップ研修を開講します。

いつ? 4月11日(土)~全10回(現在、申込受付中)
どこ? JICA中部、JICA市ヶ谷他(海外からネット受講可)
詳細 https://hitonomori.com/jica-ngo.html

2月8日 関西の帰国隊員によるリアルな体験談 JICA関西 帰国報告会 兵庫

2019年1月~12月に帰国した隊員たちによる帰国報告会を開催。困難や逆境に立ち向かいながら、現地の人々とともに活動してきた開発途上国での日々をご紹介します!

いつ? 2月8日(土) 14:00~16:40
どこ? JICA関西センター(兵庫県神戸市)
詳細 https://www.jica.go.jp/volunteer/seminar/place/

連絡先やURLの記載がないイベントの詳細は、開催場所の国内拠点のウェブサイトをご覧ください。https://www.jica.go.jp/about/structure/domestic/index.html

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所 開設40周年記念式典の開催



交流会で披露されたネパールダンス

2019年10月26日、駒ヶ根青年海外協力隊訓練所で「開設40周年記念式典・交流会」が開催され、地元の所外活動受入れ先など約130人が参加しました。宮下一郎内閣府副大臣はじめご来賓の祝辞と小林広幸青年海外協力隊事務局長のあいさつに続き、「訓練所40年の歩み」を振り返るビデオが上映され、城村英志さん(セネガル・野菜・1998年度3次隊)が隊員を代表して感謝と誓いの言葉を述べました。式典後には、訓練中の候補生約180人が加わって交流会を開催。ニカラグア、ベネズエラ、マラウイの各国大使の他、7人の歴代訓練所長も駆けつけ、最後は、隊歌「若い力のうた」の合唱で締めくくりました。

交流会で披露されたネパールダンス

熊本県とJICAとの連携協定の締結

2019年10月9日、熊本県とJICAは、地方創生や外国人材受け入れに貢献する人材の育成に向けた協力強化のため、連携協定を締結しました。主な連携内容は「県の発展に貢献する人材を育成するためJICA海外協力隊帰国者の県内での就学及び就業の促進」「開発途上地域からの技術研修員等の受入れ、同地域への技術協力専門家の派遣」などです。連携の推進に向け、熊本県立大学の大学院(博士前期課程)において、JICA海外協力隊の帰国者をはじめとする熊本のグローバル化及び地域の振興・発展に貢献できる人材の育成に取り組むため、20年4月から新たに社会人特別選抜(国際協力枠)が創設されました。詳細については、下記ウェブサイトをご覧ください。

▶熊本県立大学「2020年度 大学院入学試験情報」
http://www.pu-kumamoto.ac.jp/nyusi/graduate/

スポーツ分野におけるJICAとの連携

JICAボランティア事業では、大学の持つ専門性を活用し開発途上国への支援を充実させるとともに、大学の人材育成を目的として、大学の組織的支援を得て、大学生・大学院生などを派遣しています。JICAではスポーツ分野における大学連携にかかる覚書を9大学と結んでいます。

大学名	派遣国	職種
同志社大学	インド	ラグビー
	ボツワナ	ソフトボール
中京大学	アルゼンチン	柔道
広島大学	ザンビア	柔道
福岡教育大学	タンザニア	野球
日本体育大学	カンボジア	体育
流通経済大学	インドネシア	ラグビー
桜美林大学	コスタリカ	野球
福岡大学	ポリビア	野球 サッカー
近畿大学	ペルー	野球

天皇皇后両陛下が帰国した青年海外協力隊らと懇談

派遣国での約2年間にわたる活動を終え、帰国した青年海外協力隊員と日系社会青年ボランティアの代表が2019年9月10日、赤坂御所で天皇皇后両陛下と懇談の栄を賜りました。令和元年となった本年も帰国隊員の代表が陛下へ派遣国での活動をご報告致しました。



前列左から、曾根友美さん(日系JV/アルゼンチン・ソーシャルワーカー・2017年度1次隊)、山本貴子さん(ポリビア・看護師・2016年度4次隊)、北岡伸一JICA理事、内田有紀さん(ホンジュラス・食品加工・2016年度4次隊)、馬場葉子さん(インドネシア・日本語教育・2016年度3次隊)
後列左から、松本英徳さん(ウガンダ・自動車整備・2015年度3次隊)、竹内寛貴さん(モンゴル・理学療法士・2016年度3次隊)、高野光一さん(スリランカ・野球・2017年度1次隊)、堀井大輔さん(パラオ・生態調査・2016年度3次隊)、小林広幸青年海外協力隊事務局長

ご懇談後、参加者は、「和やかな雰囲気のもと両陛下が一人一人の報告を熱心に聞いてくださり大変嬉しく思った」、「帰国後の進路についてもご関心を寄せてくださり、大きな励みになった」などと感想を述べました。

帰国後研修、帰国報告・交流会の開催

2019年11月16~19日に東京・新宿区のJICA市ヶ谷ビルで、「帰国後研修」を開催し、106人の帰国したJICA海外協力隊が参加しました。この研修は、隊員経験を帰国後どのように生かすかをじっくり考える内容になっています。

帰国後研修の後に行われる帰国報告・交流会には、隊員の活用に関心を持つ自治体や企業などの関係者が参加し、自治体向けの会に22団体、企業向けの会に59団体が参加しました。本研修・交流会について、各隊員には帰国直前に在外事務所を通じて案内していますが、進路開拓中の帰国隊員も参加可能です。詳細については、下記メールアドレスにお問い合わせください。

▶JICA青年海外協力隊事務局 人材育成課
jvtpc-sinrosien5@jica.go.jp

次回の帰国後研修、帰国報告会・交流会の予定

帰国後研修	日程	場所
職場復帰コース	2月15、16日	JICA市ヶ谷ビル
進路開拓コース	2月15~18日	JICA市ヶ谷ビル
帰国報告会・交流会	日程	場所
自治体・団体向け	2月18日	JICA市ヶ谷ビル
企業向け	2月19日	JICA市ヶ谷ビル

2019年度3次隊の派遣前訓練が開始

2019年度3次隊の派遣前訓練(長期派遣者向け訓練)が始まります。入所予定者数は以下のとおりです(2019年12月19日現在)。1月7日から3月16日まで訓練を受け、その後各国に派遣されます。

訓練所	青年海外協力隊・海外協力隊	日系社会青年海外協力隊・日系社会海外協力隊	シニア海外協力隊	日系社会シニア海外協力隊
駒ヶ根	97	15	13	0
二本松	164	-	8	-

つぶやき

お題 ▶ リフレッシュ



イラスト=牧野良幸



今月の1枚

ダンスダンスダンス

みんなでひたすら踊り明かすセレモニー。そこにいる全員が笑顔で幸せそうで、ここにきてよかったー！って思える瞬間のひとつ。娯楽がなくても音楽があればこんなに楽しめる！ただどんなにダンスを練習しても、現地のみんなの迫力は出せないのが悔しい～、これぞまさにアフリカの血！！

ペンネーム：じえんさーら さん(女性) 協力隊員(アフリカ・幼児教育・2018年度派遣)

★心を満たすご飯

任地でいつでも手に入る主食はグリーンバナナ。2日に1回はバナナ料理。住民に教えてもらったバナナのトマト煮込み、バナナと豆の煮込み、バナナと……。おいしいけれど、首都に行ったときだけ食べられる洋食、中華料理、日本食の味は格別。おいしいもので心とお腹を満たし、また1カ月がんばるぞ。

ペンネーム：そんなばなな さん(女性)
協力隊員
(アフリカ・コミュニティ開発・2018年度派遣)

★★安らぎの場所

派遣国は、多民族国家のため現地語の数も多く、地域によって人柄や雰囲気も少しずつ違う。任地で少し疲れたときは、いろんな場所を訪れるようにしている。実際に見て感じているんな人と話してたくさん食べて、任地へ帰る。任地の良さに気づけるし、なんだかんだ任地が落ち着くと思える。

ペンネーム：海のむこうは、最高の町でした さん(女性)
協力隊員
(アフリカ・障害児・者支援・2018年度派遣)

★★★おしゃべりさん。

現地の人たちは、とにかくよくしゃべる。うれしかったことを話してみんなで喜び、辛かったことを話してみんなで悲しむ。あるとき家族に「たくさん話せば話すほどストレスは飛んでいくんだ」と言われた。YouTubeが唯一の気分転換だった私に話すことの大切さを教えてくれた。まだ何を話しているかあまり理解できていないけど。

ペンネーム：卵は完全食 さん(男性)
協力隊員(中南米・数学教育・2018年度派遣)

募集中のお題

「現地化」「ご褒美」「洗濯」

投稿は『クロスロード』編集室まで
(P35をご覧ください)

あなたのつぶやきが
イラストになるかも!?



CROSS YELL!!

—先輩隊員からの置き土産—



数学教育隊員ですが、 任地で「映画上映会」を開きました

おだたつや
文=尾田達哉さん

- ▶タンザニア
- ▶数学教育
- ▶2017年度3次隊

PROFILE

1990年生まれ、兵庫県出身。塾講師を経て、2018年1月に協力隊員としてタンザニアに赴任。20年1月に帰国予定。

活動概要

サンヤジュウ中等学校(キリマンジャロ州シハ県サンヤジュウ)に配属され、主に以下の活動に従事。

- 生徒への数学の指導
- より良い学校運営に向けた同僚教員への支援

私の活動のメインは、中等学校の生徒に数学の指導をすることです。タンザニアには、「勉強ができなければ、将来の選択肢が少なくなる」という現状があります。一方、数学の成績を上げるには、日々の反復演習が不可欠ですが、生徒たちには家で勉強する余裕がありません。帰宅すると家事の手伝いをし、終わったころにはクタクタになってしまうからです。それを知ってから、限られた時間を有効に使うためにも、彼らが学校で自主的に行動するようになるにはどうすればいいかを考える日々が続きました。

赴任して約1年経ち、日本人として生徒たちに彼らの知らない世界や見たことのない世界を見せることが、自主的な行動につながるかもしれないと考えるようになりました。私自身が映画好きなこともあり、思い浮かんだのは「任地での映画上映」です。しかし、勝手に映画の上映会を開けば、上映権違反になります。それを知り、困っていたところ、NPO法人「World Theater Project」が途上国での映画上映を行っているとの情報を得ました。問い合わせると、同法人が上映権を持つアニメーション映画を上映できるよう快く取り計らってくださり、多くの方の助けにより配属先で上映会を開くことができました。生徒が喜んでくれるか不安でしたが、映画を観るのは初めてという生徒もおり、皆が喜んでくれました。

その後、「映画」を軸に私がタンザニアでできることを考え、「近隣校での上映会」や「スワヒリ語吹き替え

版の制作」を行うことができました。吹き替え版の声優役は生徒たちです。彼ら自身で配役を決め、録音を進めていったことは、貴重な経験になったのではないかと思います。JICAの方や配属校関係者を含む多くの方に協力していただいたことで、吹き替え版を無事に完成させることができました。

「映画」にまつわる活動で、自主的に行動する生徒がどれだけ増えたのかはまだわかりません。しかし、上映会後の生徒たちの反応から、彼らにとって「映画の可能性」を考える良い機会になったと確信しています。

＼YELL!!／

言葉に困ってしまっても……

スワヒリ語も英語も自信はありませんでしたが、最低限の語学力でも海外で生活し、活動を行うことができました。大事なものは、職種にとらわれず、自分が何をしたいのかを見つけることだと思います。



初めての上映会を楽しむ生徒たち



今月号の表紙 パプアニューギニア



ながみねはやた
文=長嶺快多さん
(理学療法士・2018年度2次隊)

私はミルンベイ州の州立病院で理学療法士として活動しています。同州では町の主要な地域しか道路整備が行われていません。それ以外の地域は荒れ道を進んで行かなくてはならず、町から離れた村で暮らす患者さんは州立病院を気軽に受診できる環境がありません。そこで私たちは、車で患者さんの村を回る「訪問リハビリ」を実施しています。表紙の写真は、ジャングルや川を抜けた先にある村で、州立病院の同僚(右端)とともに可愛い患者さんを治療したときの一枚です。